



Kawasaki



保存版

JETSKI
watercraft

1100 STX

ウォータークラフト **JETSKI** watercraft 取扱説明書

JETSKI は川崎重工業株式
会社の登録商標です。

JETSTAR
STAR

ご愛用の皆様に

カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”をご購入下さいましてありがとうございます。きょうからあなたのよきパートナーとして、十分に活躍させて下さい。

この取扱説明書は、あなたのウォータークラフト“ジェットスキー”を安全かつ魅力的にご使用いただく手助けをするために編集したものです。

最初にお乗りになる前にこの本を読んで十分にご理解いただき、正しい操縦方法を完全に習得して下さい。

そして、この本に従って注意深い操縦と正しい整備を行うと、ウォータークラフト“ジェットスキー”的魅力と性能を十分に引き出せます。

また、水上での安全確保のためのマナーを守ると同時に、各種の法規、条例等も十分理解し、守って下さい。

本書では正しい取り扱い方法および点検に関する事項を、次のシンボルマークで示しています。

⚠警告

○取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

○取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

〈要点〉

○作業を正しく行うためのポイントを示しています。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

目 次

主要諸元	3
一般事項	4
製造番号	4
各部の名称	4
ラベル位置	5
マルチファンクションメータ	6
燃 料	9
エンジンオイル	10
操縦装置	11
シートラッヂ	14
備品入れ	15
小物入れ	15
工 具	15
ドレンプラグ	16
リボーディングステップ	16
カーゴネットフック	16
操縦方法	17
安全な操縦	17
乗る前の点検項目	20
ならし運転	21
エンジンの停止	21
エンジンの始動	22
発 進	24
停 止	25
旋 回	26
後 進	28
着 岸	28
ウォータークラフト“ジェットスキー”の乗り方	28
航走終了後の手入れ	30
特殊な手入れ	30
運 搬	34
保 管	35
保管する前の作業	35
保管後再使用する前の作業	37
整備と調整	38
定期整備表	38
コントロールケーブルの調整	39
燃料、エンジンオイル系統	42
スパークプラグ	44
バッテリ	45
潤 滑	46
冷却系統の洗浄	47
ビルジ系統の洗浄	48
トラブルシューティング	49
船舶検査	51
航行区域	52

主要諸元

ウォータークラフト“ジェットスキー”JT1100-A1

エンジン	
型 式	2ストローク、3気筒、クランクケースリードバルブ、水冷
排気量	1,071 cc
内径×行程	80.0×71.0 mm
圧縮比	5.8 : 1
点火方式	CDI (デジタル)
潤滑方式	分離給油式
キャブレタ	ケイヒン CDK 38-29×3
始動方式	スタータモーター
スパークプラグ	NGK BR9ES
ギャップ	0.7~0.8 mm
点火時期	上死点前17° @1,250 rpm~27° @3,000 rpm
動力伝達機構	
カブリング	エンジン直結シャフトドライブ
ジェットポンプ:型 式	軸流、単段
:推 力	364 kg
ステアリング	ステアリングノズル
ブレーキ	水の抵抗力
※性 能	
連続最高出力	120 PS / 6,750 rpm
連続最大トルク	13.2 kg-m / 6,000 rpm
最小旋回半径	4.0 m
燃料消費量	46 ℥ / h (フルスロットル運転時)
航続距離	93 km (3名乗船・フルスロットル運転時)
航続時間	1時間9分
寸法・重量	
全 長	3,100 mm
全 幅	1,170 mm
全 高	1,050 mm
乾燥重量	273 kg
燃料タンク容量	53 ℥ (予備7 ℥を含む)
エンジンオイル	
タ イ プ	カワサキジェットスキー純正オイル(2サイクルエンジンオイル)
オイルタンク容量	3.3 ℥
電 装 品	
バッテリ	12 V 18 Ah

※これらの数字は、一定の条件の下で測定されたものであり、条件が変われば数字も変わってきます。

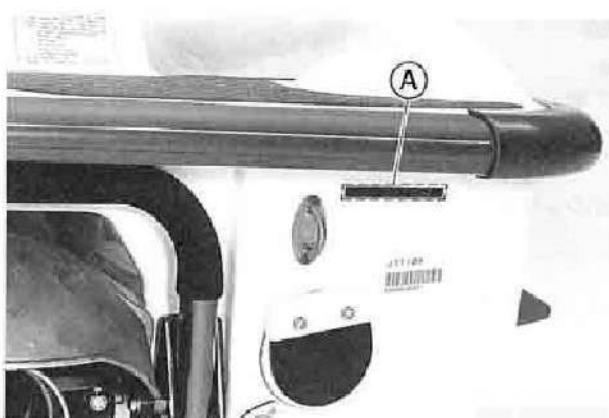
一般事項

製造番号

●船体及びエンジン番号は、あなたのウォータークラフトを表す番号です。

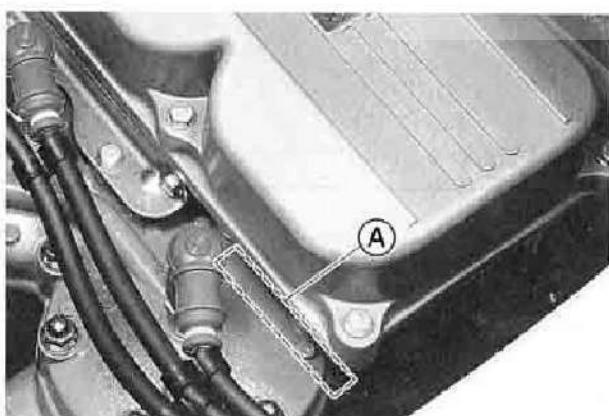
この番号は登録に必要であり、また部品注文時に必要なこともあります。また、盗難にあった場合、是非とも必要なものです。

下のそれぞれの空欄に記録して下さい。



A. 船体番号

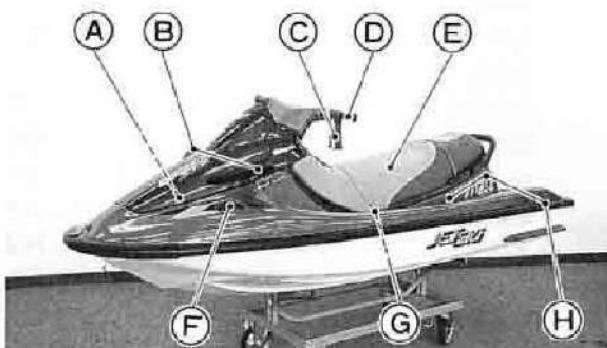
船体番号	
------	--



A. エンジン番号

エンジン番号	
--------	--

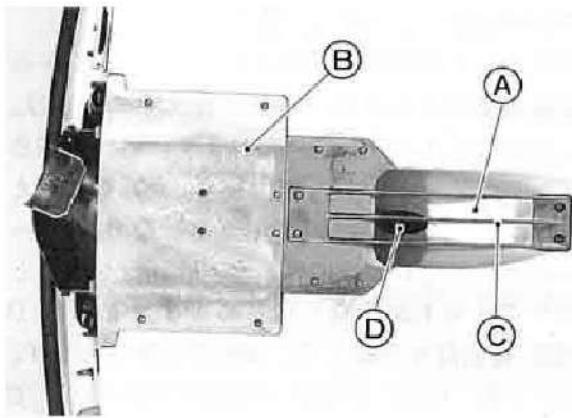
各部の名称



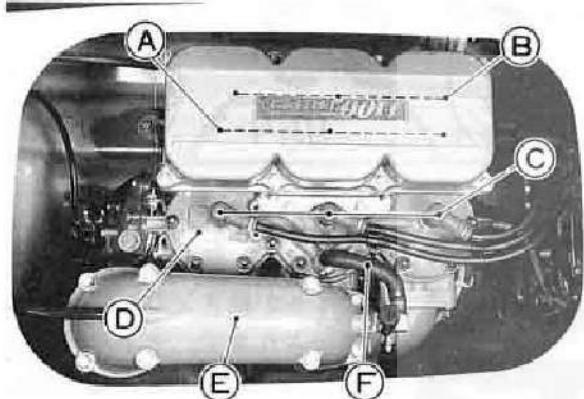
- A. 備品入れ
B. バックミラー
C. キルスイッチコード
D. ハンドルバー
E. シート
F. 燃料注入口キャップ
G. エンジンルーム
H. カーゴネットフック



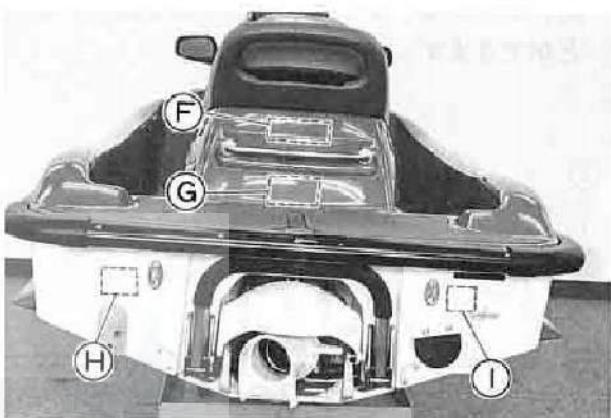
- A. リボーディンググリップ
B. ハンドレール (グリップ)
C. シートラッチ
D. 小物入れ (シート下)
E. 小物入れ (シート前)
F. スタータ、ストップボタン
G. イグニションスイッチ／
チュークノブ／燃料ノブ
H. マルチファンクションメータ
I. スロットルレバー
J. シフトレバー
K. リボーディングステップ
L. ドレンプラグ
M. リバースパケット
N. ステアリングノズル
O. 排気口
P. バイパス出口



A. 吸水口
B. ジェットポンプカバー
C. 格子
D. ドライブシャフト



A. キャブレタ
B. フレームアレスタ
C. スパークプラグ
D. シリンダーヘッド
E. エグゾーストパイプ
F. 冷却ホース



ラベル位置



- A. 燃料注入
- B. 操縦時
- C. キルスイッチコード・リボーディングステップ
- D. エンジンオイル・ならし運転・オーバーヒート
- E. 操縦時
- F. グリップ・リボーディングステップ・積載
- G. 最大搭載人員
- H. ジェットポンプ点検
- I. リバースパケット
- J. ラッチ

マルチファンクションメータ

●ステアリングハンドルバーの前方に、マルチファンクションメータがあります。イグニションスイッチをONにすると、すべてのLCDセグメントが表示され、LED警告灯が2秒間点灯します。その後メータは通常の機能に戻り、燃料やオイルの量、船の速度を表示します。またメータはモードを選択することによって、時刻、航走時間、航走路程、また積算航走時間を表示することができます。



1. MODE (モード) ボタン
2. SET (セット) ボタン
3. 燃料シンボル
4. 燃料レベル計
5. スピードメーター
6. LED警告灯

7. 水温シンボル
8. オイルレベル計
9. オイルシンボル
10. 時計および航走時間・距離、積算航走時間メータ

スピードメータ：

スピードメータはウォータークラフトの時速を示します。急旋回をしている間は、実際の速度より10ないし20km低い速度を示します。



燃料レベル計／シンボル／警告灯：

燃料タンクの燃料は、表示されるセグメントの数によって示されます。燃料が満タンのときは、すべてのセグメントが表示されます。燃料が減るに従ってセグメントは上(Fマーク)から順に消えて行き、タンク内の残量を示します。最後(Eマーク)のセグメントだけになると、燃料シンボルとそのセグメントが点滅しはじめます。またLED(赤色)警告灯も点滅して、操縦者に警告します。燃料ノブを“RES”(予備)の位置に切り換え、できるだけ早く燃料を補給して下さい。(「燃料」と「操縦装置」の各項参照。)



オイルレベル計／シンボル／警告灯：

オイルタンクのオイルは、三個のセグメントによって示されます。オイルが満タンのときは、すべてのセグメントが表示されます。オイルが減るに従ってセグメントは上(Fマーク)から順に消えて行きます。最後(Eマーク)のセグメントだけになると、オイルシンボルとそのセグメントが点滅しはじめます。またLED(赤色)警告灯も点滅して、操縦者に警告します。オイルを補充して下さい。(「エンジンオイル」の項参照。)

注 意

○オイルなしでエンジンを回すと、エンジンは重大な損傷を受けます。オイルタンクがすっかり空になったときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でオイル系統の空気抜きをしてもらって下さい。



水温シンボル／警告灯：

冷却水の温度が高くなり過ぎると、LED（赤色）警告灯と水温シンボルが点滅して操縦者に警告します。直ちに岸に戻り、冷却系統が詰まっているか点検して下さい。（「操縦方法」の章の「特殊な手入れ」の項参照。）

注意

- エンジンがオーバーヒートすると、警告灯と水温シンボルが点滅してエンジンの回転が下がります。直ちに岸に戻り、冷却系統を点検して下さい。エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを操縦しないで下さい。



時計／航走時間／航走路距離／積算航走

時間メータディスプレー：

MODEボタンを瞬間に押すと、マルチファンクションメータ下部のディスプレーに、時刻、航走時間、航走路距離、積算航走時間の四つのモードがこの順に表示され、また最初のモードに戻ります。MODEボタンを押し続けると、これらのモードが連続的に移り変わります。

時計

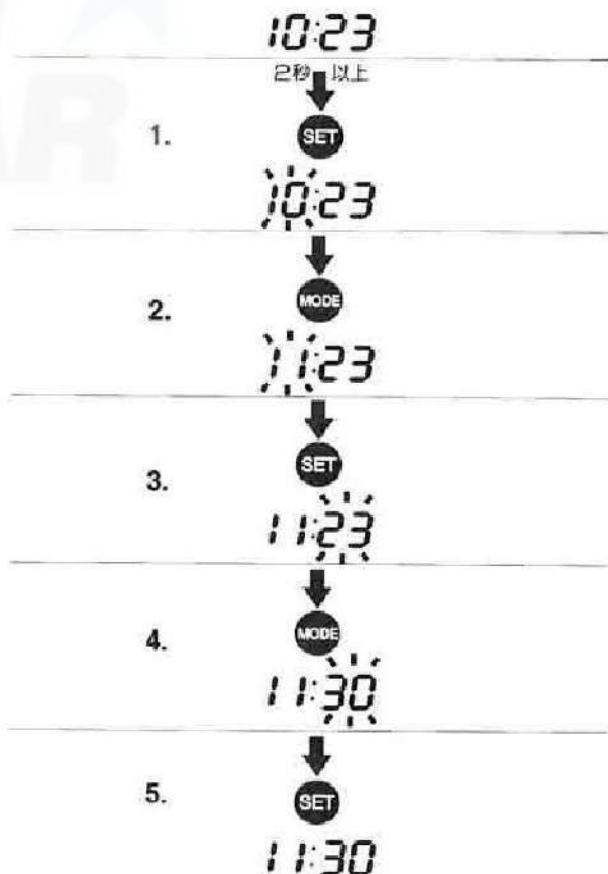


次のように時間を合わせます。

1. SETボタンを2秒以上押す。時間表示が点滅を始める。
2. MODEボタンを押して、時間表示を進める。
3. SETボタンを押す。時間表示の点滅が止まり、分表示が点滅を始める。
4. MODEボタンを押して、分表示を進める。
5. SETボタンを押す。分表示の点滅が止まり、時計が動き出す。

〈要点〉

- MODEボタンを瞬間に押すと時間表示または分表示が一つずつ進み、押し続けると連続的に進みます。
- イグニションスイッチがOFFの間は、時計はバックアップ電力により正常に動きます。
- パッテリからリード線を外すと、時刻表示は12:00にセットされ、次に接続されたときから動き始めます。



航走時間メータ

航走時間メータは、表示をゼロにリセットしてから経過した時間を示します。

次のようにリセットします。

1. SETボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後表示の点滅が止まり、時・分表示が00:00に戻る。エンジンが回転中ならすぐに動き始める。イグニションスイッチをOFFにしない限り、メータは次にリセットする（ゼロに戻す）まで動き続ける。

(要 点)

- たとえイグニションスイッチをOFFにしても、表示データはバックアップ電力によって保存され、次回ウォータークラフトを使用したときに再びそこから動き始めます。
- エンジンが回転中に表示が99:59になると、いったん00:00に戻り再び先にカウントを進め始めます。
- バッテリからリード線を外すと、表示は00:00にリセットされます。

航走路距離メータ

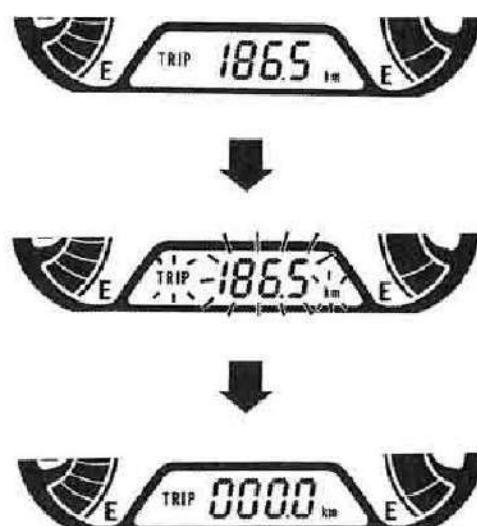
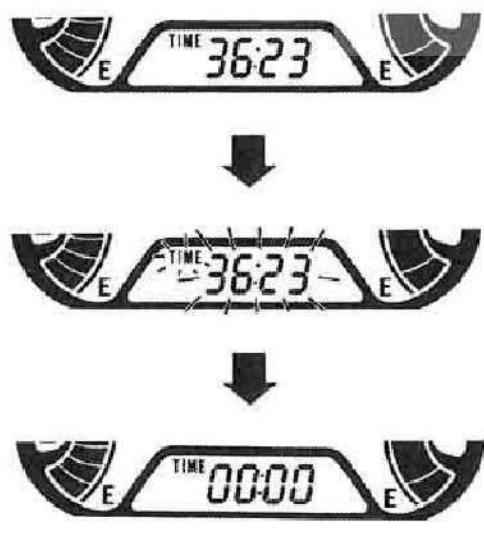
航走路距離メータは、表示をゼロにリセットしてから航走した距離を示します。

次のようにリセットします。

1. SETボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後表示の点滅が止まり、距離表示が000.0に戻る。航走中ならすぐにカウントを始める。イグニションスイッチをOFFにしない限り、メータは次にリセットする（ゼロに戻す）までカウントを続ける。

(要 点)

- たとえイグニションスイッチをOFFにしても、データはバックアップ電力によって保存されます。
- ウォータークラフトの停止中に航走路距離メータをリセットしたときは、再び航走し始めたらすぐにカウントを始めます。
- 航走中に表示が999.9になると、いったん000.0に戻り再びカウントを始めます。
- バッテリからリード線を外すと、表示は000.0にリセットされます。

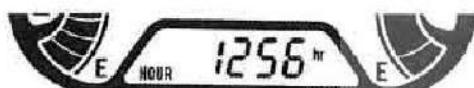


積算航走時間メータ

積算航走時間メータは、ウォータークラフトが今までに航走した全時間を示します。このメータはリセットする（ゼロに戻す）ことはできません。

(要 点)

- たとえバッテリからリード線が外されても、データは保存されます。
- ウォータークラフトが航走中に表示が9999になると、いったん0000に戻り再びカウントを始めます。



燃 料

- レギュラーガソリンを使用して下さい。

注 意

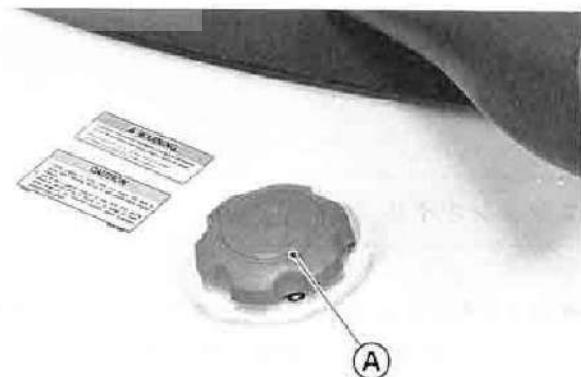
- レース用ガソリンや添加物等、規定以外のものは使用しないで下さい。エンジンの故障の原因になります。

燃料の注入

▲警 告

- ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

- 燃料タンクはバウ（船首）内部にあり、燃料注入口は船首左側にあります。



A. 燃料注入口キャップ

- キャップを開き、燃料を注入して下さい。注入する時は、細いホース等を用いると容易に注入ができます。また、ゆっくり注入すると、燃料タンク内の空気を抜くことができます。
- 燃料の注入は必ず注入口上部から100mm位までの量にして下さい。

▲警告

○燃料をタンク一杯に注入しないで下さい。
温度の上がったタンク内では燃料が膨張し、
ペントチューブから溢れる事があります。
注入後はキャップを確実に締めて下さい。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、ケースを取り出し、シートを外して数分間換気して下さい。(「シートラッチ」と「備品入れ」の項参照。)

▲警告

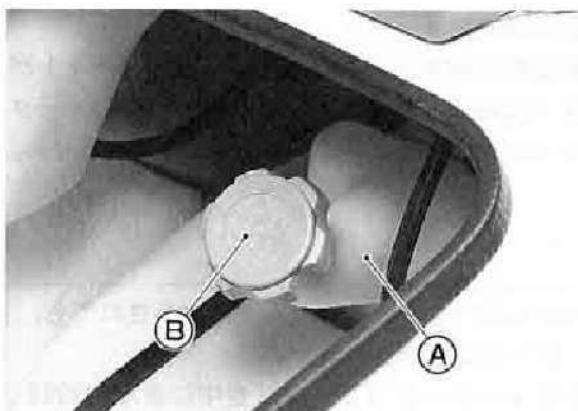
○ 気化したガソリンがエンジルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

エンジンオイル

- カワサキジェットスキー純正オイル(2サイクルエンジンオイル)を使用して下さい。

オイルの注入

- エンジンオイルタンクは、燃料タンクのすぐ上にあります。



A. エンジンオイルタンク B. オイル注入口キャップ

- 備品入れのふたを開け、ケースを取り出します。キャップを開けてエンジンオイルを入れます。

注意

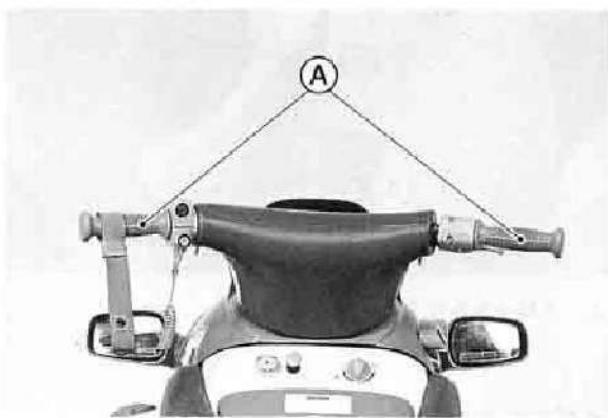
○ オイルなしでエンジンを回すと、エンジンは重大な損傷を受けます。オイルタンクがすっかり空になったときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でオイル系統の空気抜きをしてもらって下さい。

〈要点〉

○ ならし運転期間中は、特別潤滑用にガソリンとオイルの混合油を燃料タンクに入れることを推奨します。ならし運転期間が過ぎると、分離給油システムがエンジンを程よく潤滑するので、混合油を使う必要はありません。「操縦方法」の章を参照して下さい。

操縦装置

ステアリングハンドルバー



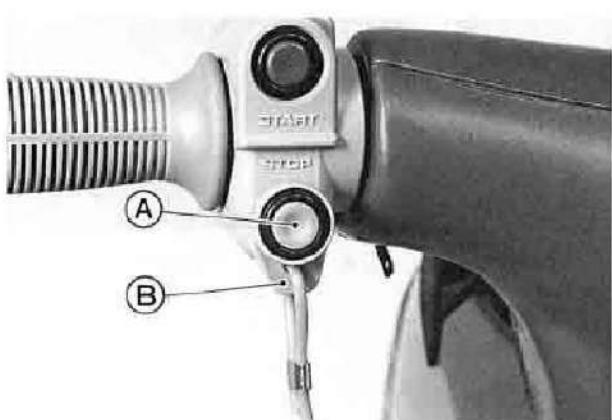
A. ハンドルバー

●ステアリングハンドルバーは自転車のハンドルと同じ機能を持っています。エンジンが回転しており、かつ、スロットルレバーを引いている時のみ、ハンドルバーを動かす事によってウォータークラフトを旋回させる事ができます。ハンドルバーはコントロールケーブルでウォータークラフト後部のステアリングノズルとつながっています。

ストップボタン

●ストップボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。ストップボタンは赤色で、上方に“STOP”と表示されています。ストップボタンを押すとエンジンは停止します。

●キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いても、エンジンは停止します。



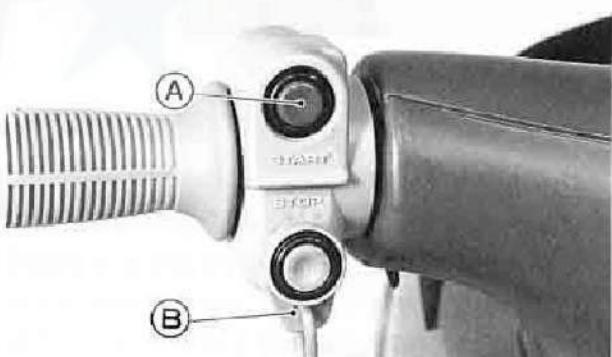
A. ストップボタン B. キルスイッチコードキー

スタータボタン

●スタータボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。スタータボタンは緑色で、“START”と下方に表示されています。キルスイッチコードキーをストップボタンの下に差し込み、スタータボタンを押すとエンジンが始動します。エンジンが始まるとボタンを放して下さい。キルスイッチコードキーを差し込んでいないと、エンジンは回転も始動もしません。

注意

○エンジンが回転している時や、スタータがまだ回っている時にスタータボタンを押さないで下さい。スタータの摩耗を早め、またスタータの故障の原因になります。



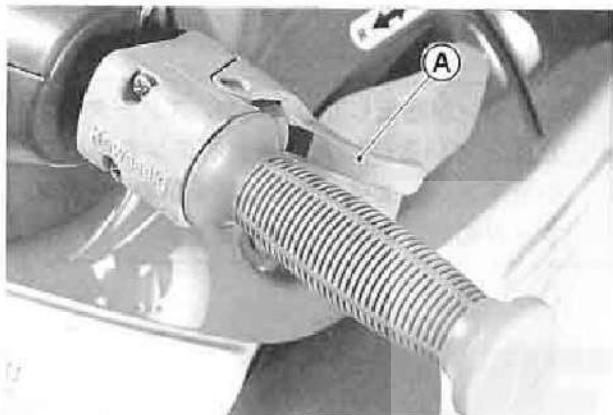
A. スタータボタン B. キルスイッチコードキー

〈要点〉

○エンジンが始動するためには、イグニションスイッチがONの位置になっており、キルスイッチコードキーがストップボタンの下に差し込まれていなければなりません。
○「操作方法」の章の「エンジンの始動」の項を参照して下さい。

スロットルレバー

- スロットルレバーはハンドルバーの右グリップに付いています。レバーを手前に引くとエンジンの回転が上がります。レバーを放すとスプリングにより前方に戻ります。エンジン始動前に、スロットルレバーが通常の位置に戻るか必ず点検して下さい。更にスロットルケーブルには適正な遊びがなくてはなりません。スロットルケーブルの調整方法については「整備と調整」の章をご参照下さい。



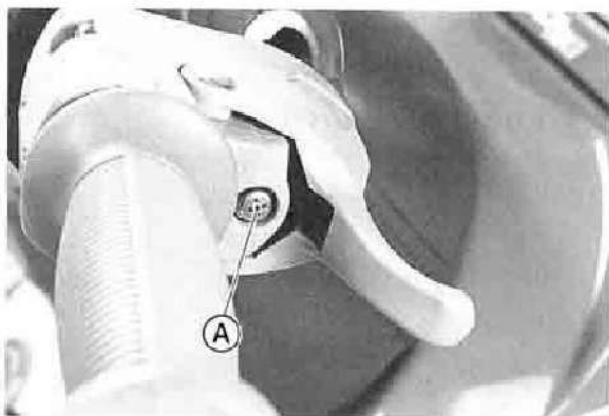
A. スロットルレバー

スロットルリミッタ

- ウォータークラフトには、初心者の為に最大エンジン出力を低減するスロットルリミッタが付いています。リミッタは、スロットルレバーの作動範囲を制限する働きをします。リミッタをねじ込んだり、ねじ戻して下さい。ねじ戻すと最大出力が減少し、反対にすると最大出力が増加します。

注意

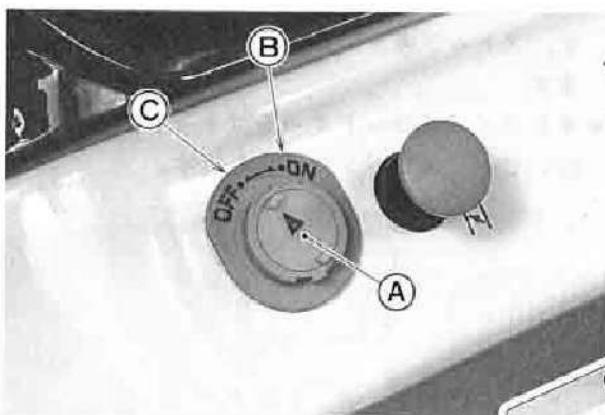
- スロットルリミッタを調整する時は、周囲にボート等のいない所でスロットルの変化を確認して下さい。
- 水から外に出した状態でエンジンをふかしてリミッタの調整をしてはいけません。エンジンが損傷するおそれがあります。



A. スロットルリミッタ

イグニションスイッチ

- イグニションスイッチはステアリングハンドルバーの手前、シートの前方にあります。イグニションスイッチキーを矢印を前方にしてめ込み、ONまたはOFFの位置に切り替えます。キーはOFF、ONのどちらの位置でも外すことができます。
- スイッチをONにしたらすぐにキーを外して、手前の小物入れに収納して下さい。
- バッテリ上りを防ぐために、エンジンを止めたら必ずスイッチをOFFにして下さい。
- 知らない間に他人に使われないように、ウォータークラフトの使用後はキーを外しておいて下さい。



A. イグニションスイッチ
B. "ON"
C. "OFF"

注意

- イグニションスイッチを“ON”にしたら必ずキーを外し、携帯するか、前部小物入れに収納して下さい。
- エンジン停止中はイグニションスイッチを“OFF”にして下さい。“ON”的まま放置するとバッテリが上がります。

イグニションスイッチキーの番号を控えておいて下さい。万一キーを紛失したときは、カワサキの販売店にその番号を云って、同じキーを求めて下さい。

キー番号

チョークノブ

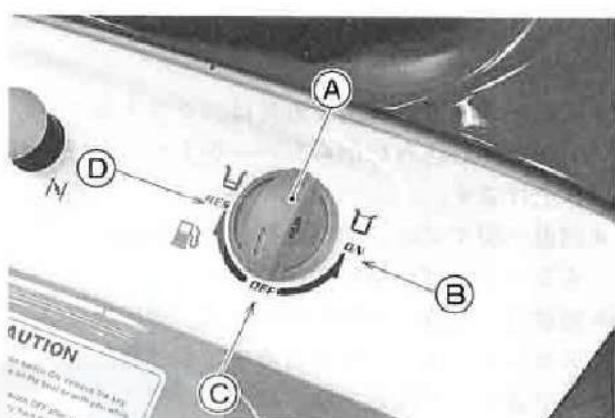
- チョークノブはイグニションスイッチの右にあります。チョークノブを手前へいっぱい引くと(“ON”位置)、混合気が濃くなって始動が容易になります。始動後はチョークノブをいっぱい押し込んで下さい(“OFF”位置)。

〈要点〉

- もし、チョークノブがエンジン始動後も引き出されたままになっていると、燃料のむだ使いとなり、性能も下がり、またスパークプラグの汚れの原因になります。

燃料ノブ

- 燃料ノブはステアリングハンドルバー手前の右側にあります。このノブには、“ON”“OFF”“RES”(予備)の三つの位置があります。ONの位置で燃料を使い果たした時は(LED - 赤色 - 警告灯、燃料シンボル、最後の一つのセグメントが点滅する)、ノブをRESに切り換える事により約7ℓの予備燃料が使えます。RESに切り換えてから、エンジンはフルスロットルで約9分間運転できます。



A. 燃料ノブ
B. “ON”

C. “OFF”
D. “RES”

〈要点〉

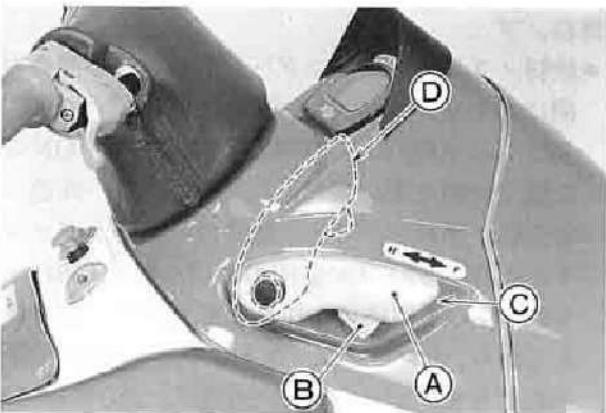
- “RES”(予備)の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給して下さい。
- 補給後はノブを必ず“ON”的位置にして下さい。



A. チョークノブ

シフトレバー

- このウォータークラフトは、スター(船尾)のステアリングノズルについたバケットの作用で後進ができます。前進、後進切換のシフトレバーは、ステアリングハンドルバーの右側、下にあります。シフトレバーは“F(前進)”と“R(後進)”の二段階になっています。



A. シフトレバー
B. ノブ
C. "F (前進)"
D. "R (後進)"

- 前進から後進に切換えるには、シフトレバーのノブを押し込みながらレバーを上へいっぱい引き上げます。
- 前進へ戻すには、ノブを押し込みながらレバーを下へいっぱい押し下げます。
- 前進から後進へ切換える場合は、その前に必ずスロットルレバーをゆるめて船の速度を落として下さい。（「操縦方法」の章の「後進」の項参照。）

▲警告

○高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータークラフトのバウ（船首）が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず船が停止するまで減速し、また同乗者に安全のための注意を呼びかけて下さい。

シートラッチ

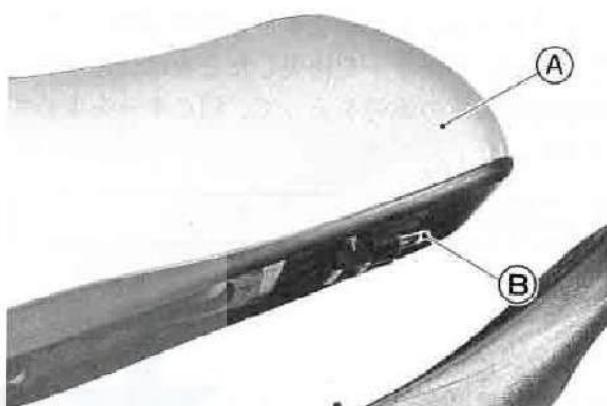
- シートの後端下側のラッチを外すと、シートを取り外すことができます。

シートの外し方：

ラッチハンドルを引き、シートを後方へ外します。

シートの取り付け方：

シート先端を所定の位置にきっちりと合わせ、シートの後端を前方へいっぱい押します。シート後部を押し下げ、ロックします。



A. シート
B. ラッチハンドル

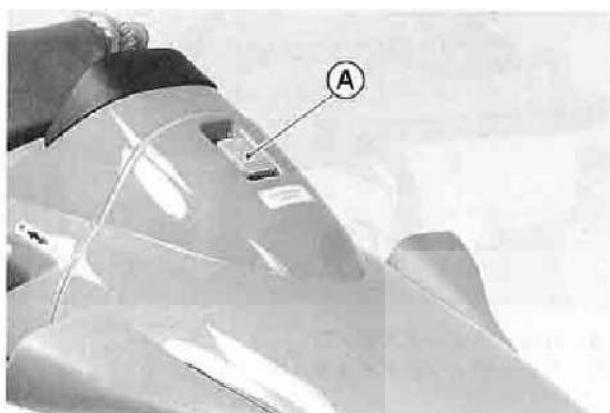
- ウォータークラフトを輸送するときは、シートがガタついて損傷しないようにラッチを完全にロックして下さい。
- シート後方のグリップとその下のリボーディンググリップは、水深の深い場所から船に上がるためのものです。また、水上スキーヤーを引っ張っているとき、同乗者は見張りのために後方に向き、シート後方のグリップをつかみます。これら以外の目的に使ってはいけません。

注意

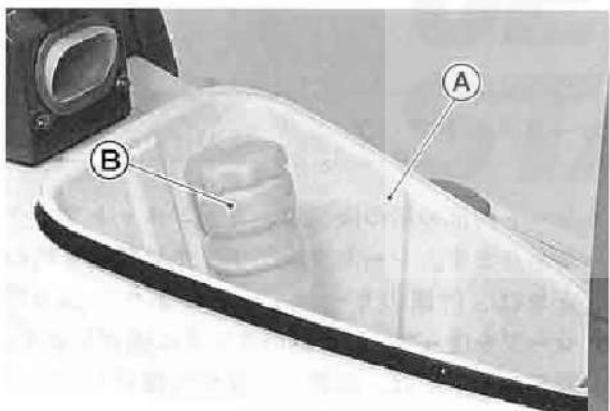
○シート後方のグリップやリボーディンググリップを使ってウォータークラフトを持ち上げたり、他の船をけん引したり、あるいは船体固定用ベルトでしばりつけたりしないで下さい。

備品入れ

- 備品入れは船首にあります。内部のケースは簡単に取り出せます。この取扱説明書を防水の袋に入れて、ここに保管して下さい。ノブを引き上げ、ふたがロックするまでいっぱい開きます。閉めるときはふたの支柱の上方を後へ引きながらふたをおろします。ノブのまわりを押して、ロックします。

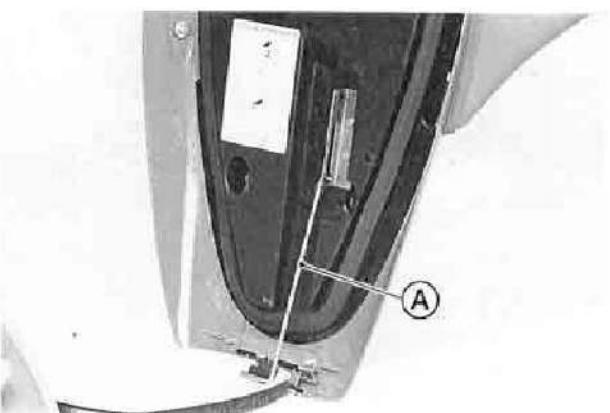


A. ノブ



A. 備品入れ

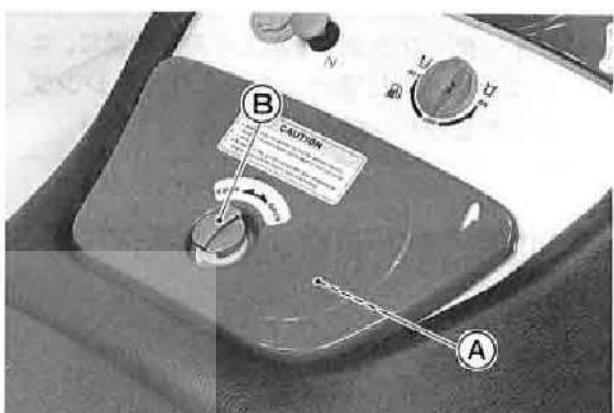
B. 消火器入れ



A. 支柱

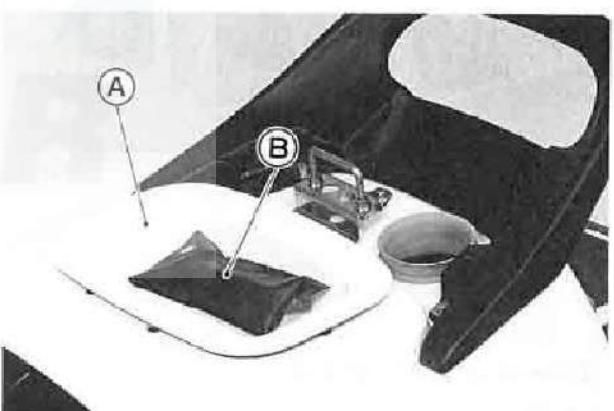
小物入れ

- シートのすぐ前とシートの下に小物入れがあります。工具はシート下の小物入れに保管して下さい。また、両方の小物入れにはごく軽量の物だけを入れて下さい。前部のふたは、ノブを右へいっぱいいまわすと開きます。閉めたあとは、ノブを左へいっぱいいまわすとロックします。



A. 小物入れ（前部）

B. ノブ



A. 小物入れ（シート下）

B. 工具

工具

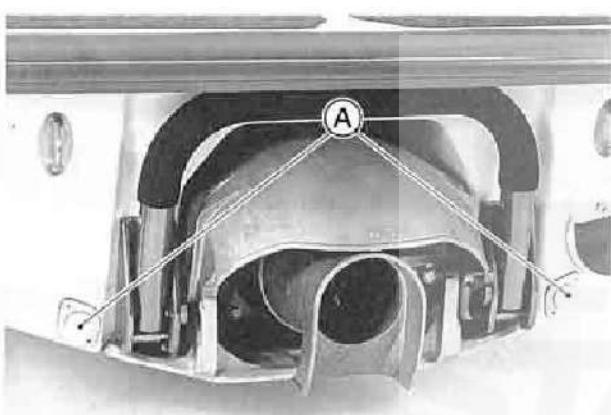
- 工具はシート下の小物入れに収納されています。「小物入れ」の項を参照して下さい。

ドレンプラグ

- スターン（船尾）には、エンジンルームにたまつた水を排出するため二つのドレンプラグがあります。ウォータークラフトを陸上に引き揚げたときだけドレンプラグを外して下さい。

注意

- ウォータークラフトを水上におろす前に、エンジンルームに浸水しないようにドレンプラグをしっかりと締めて下さい。



A. ドレンプラグ

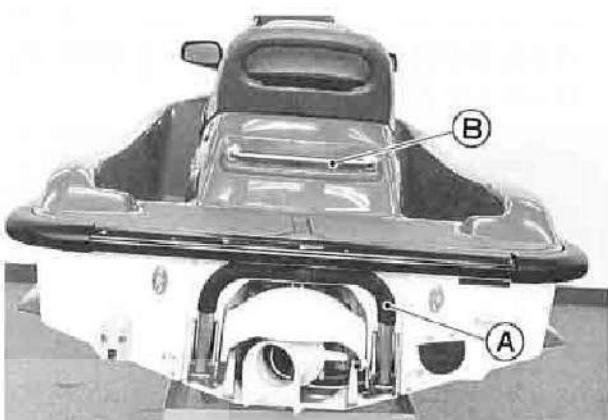
リボーディングステップ

- このウォータークラフトには船尾に折りたたみ式のリボーディングステップが取付けられています。船尾から乗船するときはステップを下へ引き降ろします。離すとスプリングの力でもとの位置に戻ります。このステップとシート後端下側のリボーディンググリップを使うと、水中からより容易に船に上がることができます。（「操縦方法」の章の「安全な操縦」と「発進」の各項参照。）

またこのステップは、水深の深い場所から船に上がるためだけに設計されているので、人をこれにつかまらせて航走しないで下さい。

▲警告

- 誰かがリボーディングステップにつかまっているときは、けがを避けるため水中で引っぱらないで下さい。



A. リボーディングステップ
B. リボーディンググリップ

カーゴネットフック

- シート後部の船の両側に、カーゴネットフックがあります。シートや後部デッキに荷物を積むときは、付属のカーゴネットかまたは適当なロープを使って、これらのフックに固定します。詳細については、次章の「安全な操縦」の中の「安全な積載」を参照して下さい。



A. カーゴネットフック

操縦方法

安全な操縦

操縦者と同乗者の水泳能力：

⚠警告

○道具（たとえ浮袋のような簡単なものでも）を使って水上で遊ぶ人は泳ぎができなければなりません。また、泳いで戻ってくることができる範囲より沖合に出ではいけません。

安全運転規則：

⚠警告

○ウォータークラフトを操縦するには、四級小型船舶操縦士以上の海技免許が必要です。
○ウォータークラフトを操縦する際は、必ず安全規則、各地方の条例等をよく確認し、これらに従って下さい。

- 航走を始める前には必ず当地の天気予報を確認して、気象の変化に注意しておきます。

注意

○一般に陸上より海上の方が気象変化の程度が大きいので、変化には十分注意して下さい。
○気象情報のみにたよらず、観天望気により突風、霧の前兆があれば直ちに帰港して下さい。

観天望気：雲ゆきや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝やけ、夕やけ、山の上の笠雲などを観測して判断することです。狭い地域の天気を予測するのに役立ちます。

- ウォータークラフトは日没後、操縦しないで下さい。夜間も操縦できるように設計されていますし、灯火もありません。

注意

○波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータークラフトに過激な力がかかり、船体の破損の原因になります。

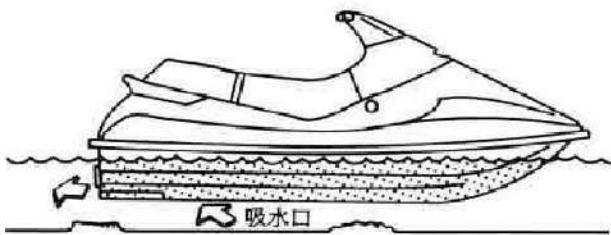
- このウォータークラフトの定員は3名です。定員以上乗ってはいけません。また、水上スキーヤーを引っ張っているときは、操縦者以外に同乗者は1名しか乗ってはいけません。そして、定員と荷物の合計最大積載量は、225kgです。
- エンジンを始動する前に、スロットルやステアリング及びシフトレバーが正常に動くか点検して下さい。これらが故障していると、事故につながることがあります。
- 操縦者と同乗者は、常にライフジャケットを着け、その他安全装備をしてください。
- 操縦者は航走中必ずキルスイッチコードを手首にはめておいて下さい。もしうせずに落水したとき、エンジンは停止しません。
- 発進や急旋回する時は周囲に十分注意して下さい。ウォータークラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、周囲の人が思っているより早く旋回できるからです。旋回する前にいつも後から他のボートなどが近づいて来ていないか、ふり返って確かめて下さい。バックミラーだけに頼ってはいけません。ボートの方向、距離、スピードを誤って判断したり、またはまったく見えなかったりするかも知れません。
- 航走中ずっと同乗者はバランス保持のため両足をデッキにおき、すぐ前の人の体につかまるか、シートバンドをつかんでおいて下さい。そうしないとバランスを失ってけがをすることがあります。また、水上スキーヤーを引っ張っているときは、同乗者はスキーヤーを見張るため後方を向き、グリップをしっかりとつかんでいて下さい。バックミラーでスキーヤーを見張ってはいけません。
- ウォータークラフトが前進中に後進へシフトするときは、徐々に減速してからシフトレバーを操作して下さい。また、シフトする前に同乗者に知らせて、安全のための注意を呼びかけて下さい。そうしないと、船首が水中に突っ込んで、同乗者がけがをする恐れがあります。
- 旋回するためにはジェットポンプからの推力が必要です。スロットルレバーを完全に離すと旋回能力が落ち、障害物を避けようとしても避けられない恐れがあります。
- 他のウォータークラフトや水上スキーヤーをけん引しているときは、注意が必要です。けん引

はハンドル操作に影響があり、危険な状態を引き起こす恐れがあります。このウォータークラフトは、どんな条件のもとでも、どんなタイプの水上スキーヤーでも充分引っぱれるだけの力があるとはいません。けん引能力はそのときの風と波の状態と同様、スキーヤーの熟練度、体重、そして装備によって変わります。また、他の船を操縦している人達も、このウォータークラフトが何かをえい航したり、けん引しているとは思っていないかも知れません。常に船のコントロールができる範囲でスピードを上げて下さい。えい航したり、水上スキーヤーを引っぱるときは、操縦に余分な時間とスペースを見ておいて下さい。また、水上スキーヤーを引っぱるときは、リボーディンググリップ中央のフックを使って下さい。他の船をえい航するときは、ロープを船尾の二つのフックにつなぎます。

- このウォータークラフトは転覆しても自動復元しません。従って、操縦する人は誰でも船の正しい起こし方を知っているなければなりません。
- ジェットポンプが詰まり、事故の原因となるので、雑草・海草や浮遊物の多い所で操縦しないで下さい。
- インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあるので、浅瀬で操縦しないで下さい。
- 他のボート、特に水上スキーをしているボートには注意して下さい。
- 決して水上スキー用のジャンプ台をとび越えないで下さい。ウォータークラフトの損傷や、操縦者と同乗者のけがのもとになります。
- 酒気を帯びたり、または正常な運転や判断を妨げる恐のある薬物を服用して、ウォータークラフトを運転してはいけません。
- 波を横切るまえに、速度をおとしてください。荒波の中を高速で航走すると、腰をいためることがあります。
- 同乗者がリボーディングステップを使う前に、操縦者は必ずエンジンを止め、キルスイッチコードキーを抜いて下さい。同乗者がリボーディングステップの上で足をすべらせて、すき間にはさまれた状態で水中を引きずられると、けがをする恐れがあります。同乗者は、エンジンの回転中はリボーディングステップを使用しないで下さい。

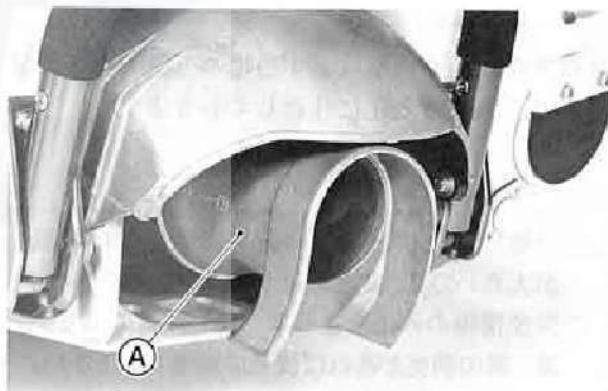
ジェットポンプに関する注意：

ジェットポンプはもともとプロペラ推進より安全になっていますが、次の特別な注意が必要です。



▲警告

○エンジンが回転中は、ジェットポンプの吸水口（船底の中央後部）に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル（噴水口）に物をさし込まないで下さい。けがをする恐れがあります。



A. ステアリングノズル

安全な積載：

▲警告

○不適切な荷物の積載やアクセサリの使用、またはウォータークラフトの改造は、船の操縦安定性に悪い影響を与え、航走条件を危険にします。乗る前に積載過剰になっていないか、また以下の指示に従っているか、必ず確認して下さい。

最大積載量

3名または225kg（荷物を含む）

- 後部デッキに荷物を積むことができます。船から落ちて紛失しないように、ばらばらの荷物は浮力のある容器に必ず収納して下さい。
- 荷物を後部デッキに固定するため、付属のカーゴネットか、他の適当なロープを使って下さい。船体についているフックは、カーゴネット固定用です。船体固体用ベルトを使う場合は、シート後端グリップの下のリボーディンググリップと、船尾ステアリングノズル左右のえい航用フックを使って下さい。
- 航走中に荷物が動かないことを確認して下さい。できるだけ何べんも荷物の固定具合を点検し、必要ならば締め直して下さい。
- 視界をふさいだり、操縦者の船のコントロール能力に影響を与えるような大きい、またはかさばった荷物を積まないで下さい。また、船の性能を落とすようなアクセサリをつけたり、荷物を運ばないで下さい。
- 荷物はできるだけ低く、また重量が両側に均等になるように積みます。
- 荷物は乗船を妨げる場合があることを知っていて下さい。

▲警告

○ 後部デッキに積んだ荷物は、乗船を妨げ、バランスをくずす恐れがあり、そのためかがをすることがあります。乗船の妨げにならないように、荷物を積んで下さい。



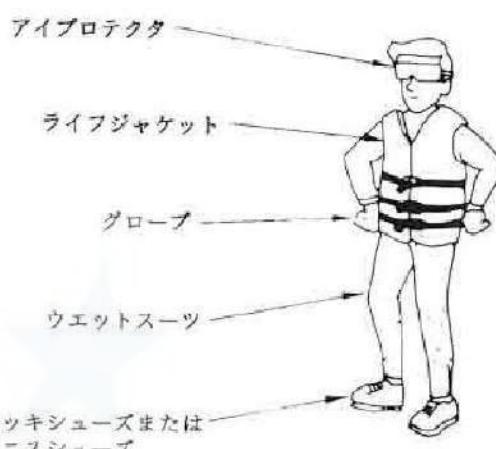
A. カーゴネットフック

B. 後部デッキ

操縦者と同乗者の安全装備：

▲警告

- 操縦者と同乗者は、必ずライフジャケットを着けて下さい。
- 落水・乗り込み時に、水の圧力により体腔内に水が入り負傷することがあります。操縦者と同乗者は、しっかり保護できるウェットスーツパンツのような水着を着用して下さい。



目と足もとの安全と保護：

▲警告

- ウォータークラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なアイプロテクタ等をかけて安全をはかって下さい。
- 水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。操縦者も同乗者もデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかって下さい。

乗る前の点検項目

- 毎回ウォータークラフトを使用する前に、必ず次の事項を点検して下さい。

ウォータークラフトの外側：

1) ポンプの清掃：

吸水口、ジェットポンプ、ドライブシャフト等から異物を取り除いて下さい。

2) ポンプカバー：

ジェットポンプカバー、吸水口格子に緩みがないか点検し、必要なら取付けボルトを締めて下さい。

3) 船体の損傷：

船体の損傷を点検して下さい。

4) ドレンプラグ：

スター（船尾）のドレンプラグが確実に締められているか確認します。

5) ステアリング：

ステアリング系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検して下さい。必要であればケーブルを調整して下さい。（「整備と調整」の章参照。）ステアリングケーブルは両端をシールしており、潤滑は不要です。もし、シールが破損していれば、ケーブルごと交換して下さい。

6) シフトレバー：

シフトレバーを“F（前進）”、“R（後進）”のそれぞれの位置に動かしてみて、ひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか点検します。また、スター（船尾）のリバースパケットが、シフトレバーの動きと正常に対応して動くか点検します。（「整備と調整」の章参照。）

ウォータークラフトの内側：

7) スロットルコントロール：

スロットル系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検し、必要であれば調整します。（「整備と調整」の章参照。）スロットルレバーは手を放すと完全にもとの状態に戻らなければなりません。

⚠警告

○もし、スロットルレバーがなめらかに、完全に戻らないと、操縦不能になる恐れがあります。

8) エンジンルームの換気：

備品入れのふたを開け、ケースを取り出し、シートを外して数分間エンジンルームの換気をします。

⚠警告

○気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

9) 燃料タンク内の圧力：

燃料注入口キャップを開き、タンク内の圧力を逃がします。キャップはしっかりと締めて下さい。

10) 燃 料：

燃料タンク内の量を点検します。必要ならば燃料を補給し、燃料ノブを“ON”にします。

11) エンジンオイル：

オイルタンク内のオイルを点検します。必要ならば補充します。

12) 燃料漏れ：

エンジンルーム内に燃料漏れがないか点検して下さい。

13) オイル漏れ：

同時にオイル漏れがないか点検します。

14) ファスナ：

ボルト、ナット、クランプ等に緩みがないか点検し、あれば締めて下さい。

15) ホースの接続：

すべてのホースが確実に接続され、また、すべてのホースのクランプがしっかりと締められているか確認して下さい。また、すべてのホースを点検し、劣化やひび割れがあれば交換して下さい。

- 16) ビルジ（あか）の排水：
エンジンルームに水がたまつていれば、ドレンプラグを外して水を出して下さい。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- 17) キルスイッチコード：
エンジンを始動して、数秒間回転させます。（「エンジンの始動」の項参照。）コードキーをトップボタンから抜いて、エンジンが停止するか確認します。

▲警告

○密閉された場所でエンジンを運転しないで下さい。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

注意

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 18) ストップボタン：
再びエンジンを始動して数秒間回転させます。ストップボタンを押して、エンジンが停止することを確認します。
- 19) シート：
シートのラッチが完全にロックされているか確認します。
- 20) 操縦者と同乗者の保護：
操縦者と同乗者は常にライフジャケットを着け、その他安全装備をして下さい。

ならし運転

●新しいウォータークラフトは、ならし運転が大切です。これは、機械部品の各摺動部になじみをつけ、それらの偏摩耗を防ぎ、また表面を滑らかにするためです。ならし運転期間中は、特別潤滑用に50：1のガソリンとカワサキジェットスキーカー純正オイルの混合油を燃料タンクに入れることを推奨します。最初の5時間（燃料タンクで約3杯分）のエンジン運転中は、この混合油を使用して下さい。ならし運転期間が過ぎると、分離給油システムがエンジンを程よく潤滑するので、混合油を使う必要はありません。また、最初の5時間は急激な加速や長時間の全速運転をしないで下さい。この間は全速の3／4以下で運転して下さい。スロットルリミッタを半分のところまでねじ戻して下さい。

一定の速度で長く運転せず、ひんぱんに速度を変えて運転して下さい。

●ならし運転期間中、ウォータークラフトを注意深く取り扱うと、より効率よく、信頼性の高い性能が確保でき、長持ちにつながります。
●上記ならし運転に加えて、最初の10時間運転後、整備工場で定期点検整備を受けて下さい。「整備と調整」の章の「定期整備表」をご参照下さい。

エンジンの停止

エンジンは次の二つの方法のどちらか一つによって、止めることができます。

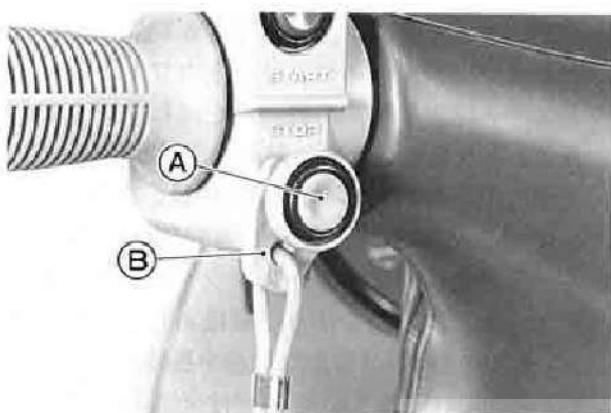
○赤色のストップボタンを押します。押し続ける必要はありません。エンジンが停止すると、ストップボタンはもとに戻り、始動できる状態になります。

○キルスイッチコードキーをトップボタンから抜きます。エンジンを再び始動させるためには、コードキーをトップボタンの下に差し込むねばなりません。

どちらの方法でエンジンを止ても、イグニションスイッチをOFFにして下さい。

▲警告

- エンジンが停止すると、ウォータークラフトの進路変更ができなくなります。



A. ストップボタン B. キルスイッチコードキー

- もし、緊急にエンジンを停止しなければならない時は、赤色のストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いて下さい。

考えられる緊急事態とは：

- *エンジンの回転をコントロールできなくなったとき。
- *スロットルレバーが指をはなしても完全に戻らないとき。

▲警告

- もし、スロットルが正しく作動しないときは、原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを運転しないで下さい。

注意

- エンジン停止中はイグニションスイッチを“OFF”にして下さい。“ON”的ま放置するとバッテリが上がります。

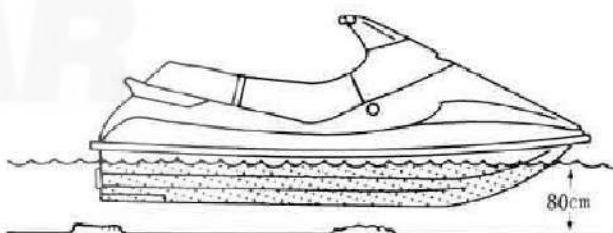
エンジンの始動

- ウォータークラフトを水上に下ろす前に、この章の「乗る前の点検項目」の項をよく読み、その指示に従って下さい。
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、ケースを取り出し、シートを外して数分間換気して下さい。

▲警告

- 気化したガソリンがエンジルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 雑草・海草や浮遊物のない水深80cm以上の所に船体を浮かべます。前方に泳いでいる人達がないか、また、ボートや障害物がないかよく確認します。



注意

- ウォータークラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80cm以上の所で行って下さい。

- 燃料ノブを“ON”にします。
- シートに座り、コードキーをストップボタンの下に差し込み、コードのもう一方の端を手首にはめます。コードを引っ張ってみて、しっかりと手首にはまっているか確認して下さい。

〈要 点〉

- キルスイッチコードキーがストップボタンに差し込まれていないと、エンジンは回転も始動もしません。
- イグニションスイッチキーを矢印を前方に向けてスイッチにはめ込み、押し込みながらONの位置へまわします。そしてすぐにキーを外し、前部の小物入れに入れます。

注 意

- イグニションスイッチを“ON”にしたら必ずキーを外し、携帯するか、前部小物入れに収納して下さい。

〈要 点〉

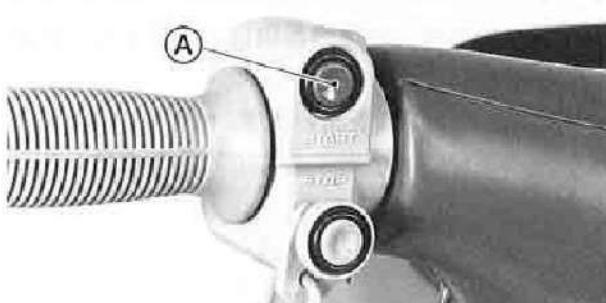
- エンジンが始動しない時は、15秒間隔で始動を行って下さい。こうすることはバッテリーやスタータの寿命を延ばすことになります。
- エンジンに初爆があれば、たとえ始動に至らなくてもチョークノブを左へいっぱい戻して下さい。燃料の過給を防ぎます。
- エンジンが温まっているときは、チョークを使わないで下さい。

注 意

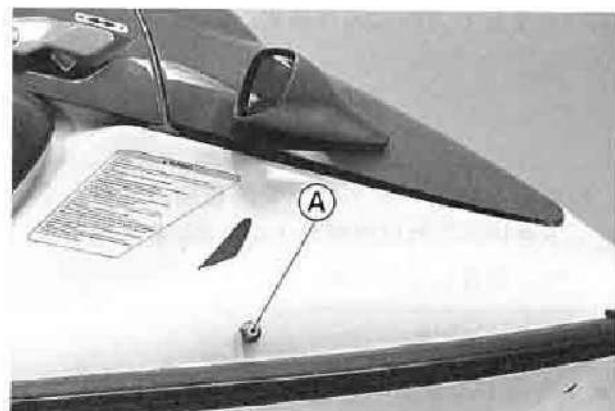
- エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っている時に、スタータボタンを押さないで下さい。スタータの摩耗を早め、故障の原因になります。

- チョークノブを手前へいっぱい引きます。（“ON”位置）
- 左手で緑色のスタータボタンを押し、エンジンが始動したら放して下さい。もし、エンジンが5秒以内に始動しない時は、スタータボタンを放して下さい。15秒間待って再び始動させて下さい。数回試みても始動しない時は、「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。

- エンジン始動後、約1分間暖機運転します。ときどきスロットルレバーを少し引いて回転を上げます。長時間のアイドリングはスパークプラグを汚すことになります。
- スロットルレバーを引いたとき、船体の右側のバイパス出口から水が出てくるか確認して下さい。これは冷却水が循環していることを示しています。もし、水が出てこなければエンジンを停止し、原因を調べます。排気系統に水が入っていないときは、バイパス出口に水が出てくるまで15秒ほどかかります。



A. スタータボタン



A. バイパス出口

〈要 点〉

- エンジン始動後は、スロットルレバーをひんぱんに引かないで下さい。加速ポンプが余分な燃料を送り、スパークプラグがかぶることがあります。

注 意

- 桟橋から離れるときは、急旋回や急加速を避けて下さい。そうしないと船尾が桟橋に当たり、損傷するかも知れません。操縦者は急激な操作をする前には、旋回する余裕が水面にあるか必ず確認して下さい。

発進

桟橋からの発進：

- 桟橋からウォータークラフトの上に飛び降りてはいけません。
- まず桟橋側のデッキに片足をおき、次にハンドルバーをもち体重を移動させて船のバランスをとりながらシートにまたがって座ります。
- シフトレバーが前進しようとする場合は“F”に、後進の場合は“R”になっているか確認します。
- 桟橋を離れるときは、船を押してもらうか、または船尾の水面に十分余裕ができるまで桟橋から浅い角度で船を動かします。ウォータークラフトは船首でまわるのではなく船尾でまわるので、桟橋に当たらないように十分注意して下さい。
- 前方に障害物等がないか確認して、ハンドルバーを走る方向に向けます。

⚠警 告

- 進行方向にいるボートや障害物に注意して下さい。これは危険防止のため、初心者には特に重要なことです。

- スロットルレバーを引いて旋回ができる推力を出します。

- 広い水面に出ていくに従って、徐々に加速します。
- スピードが上がるにつれてウォータークラフトは水平になって滑走します。
- いったん滑走状態になったらスロットルを戻し、好みのスピードで走って下さい。

〈要 点〉

- 航走中は、スロットルレバーをひんぱんに引かないで下さい。加速ポンプが余分な燃料を送り、スパークプラグがかぶることがあります。

- 進行方向のボートや泳いでいる人達、また障害物に絶えず注意して下さい。

ランプからの発進：

- ウォータークラフトを水上に降ろす前に、「乗る前の点検項目」の項の各項目を点検したか確認して下さい。
- 同時に、ランプの表面の状態、傾斜及び幅が、トレーラーやけん引車に適しているか点検して下さい。

注 意

- ウォータークラフトが浸水しないように、スターン（船尾）のドレンプラグがしっかりと締められているか点検して下さい。

水深の深い場所での発進：

一人乗りの場合

- ウォータークラフトの後部へまわります。
- エンジンが止まっていることを確認します。
- シート後端のグリップか、またはその下のリボーディンググリップをつかみ、リボーディングステップを下ろします。はじめに片ひざ、次に片足または両足をステップにおいて体をデッキの上へ引き上げます。次に片ひざずつデッキ後部にのせます。船に上がるとき、ステップや船上ですべらないように注意して下さい。
- シート中央のバンドをつかんで、船のバランスをとりながらデッキに両足をおきます。
- シートにまたがって座ります。

二人または三人乗りの場合

- 操縦者が船のバランスをとっている間に、同乗者は後部から一人乗りの場合と同じ要領でウォータークラフトに上がります。

▲警告

- 同乗者がリボーディングステップを使う前に、操縦者は必ずエンジンを止め、キルスイッチコードキーを抜いて下さい。同乗者がリボーディングステップの上で足をすべらせて、すき間にはさまれた状態で水中を引きずられると、けがをする恐れがあります。
- 同乗者は、エンジンの回転中はリボーディングステップを使用しないで下さい。

水深の浅い場所での発進：

注意

- ウォータークラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80cm以上の所で行って下さい。

- 船の左右どちら側からでも、また、後部からでも乗ることができます。どの場合でも、乗るときはウォータークラフトが安定するようにバランスをとって下さい。

停止

通常停止：

▲警告

- フルスピードで滑走中は、動いている物や止まっている物から100m以内に直進して近づかないで下さい。止まりたい場所に近づく前に必ずスロットルレバーを戻してスピードを落として下さい。
- ウォータークラフトにブレーキをかけるつもりで後進ヘシフトしてはいけません。バウ(船首)が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。

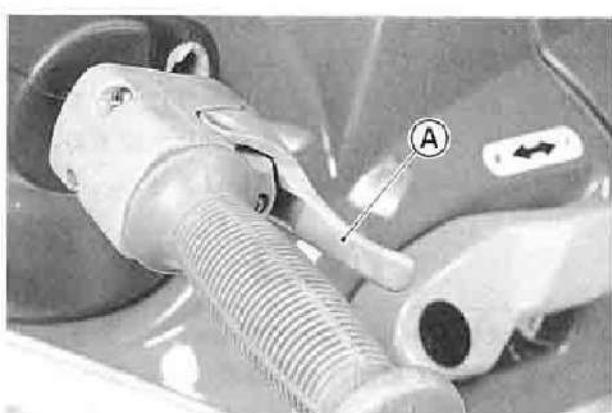
このウォータークラフトは、次の順序で水の抵抗を利用して停止します。

1. 止めようとする区域に到着する前に、スロットルレバーを放します。
2. アイドリング状態のまま、停止区域へ向かって進みます。

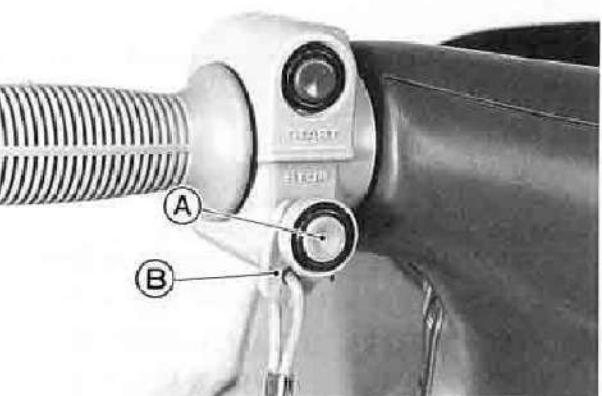
注意

- 異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、水深が80cm以下になる前にエンジンを止めて下さい。

3. 完全に停止させるため、ストップボタンを押すか、またはコードキーをストップボタンから抜きます。



A. スロットルレバー



A. ストップボタン B. キルスイッチコードキー

スロットルレバーを放すと前進速度は落ちますが、エンジンがまだ回転しているので、再びスロットルレバーを引いてウォータークラフトの進行方向を変えることができます。

この方法でウォータークラフトを旋回させ、障害物から離れることができます。

▲警告

○スロットルレバーを完全に放すと、ウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

岸辺に近づいてきて停止したいときには、ストップボタンを押して下さい。エンジンが直ちに止まるので、砂や異物がジェットポンプに入り損傷をうけることを防ぎます。水深80cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

▲警告

○再びスロットルを使ってウォータークラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないで下さい。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

停止技術：

停止距離は操縦者と同乗者の体重や乗船位置、アイドリング速度、滑走速度等によって変わります。熟練した操縦者はいろいろな操縦技術を使って停止距離を短縮することができます。停止するときに急旋回（スロットルを使って）することは、停止距離を短くするのに使える一つの方法です。

最短停止距離：

三人乗りで、最高速度からの最短停止距離は91mです。

この数字は、一定の条件の下で測定されたものです。従って、条件が変わればこの数字も変わってきます。

旋回

ウォータークラフトを旋回させるには、次の二つの動作の組み合せが必要です。

- ハンドルバーを回す。
- スロットルを使う。

左旋回するためにはハンドルバーを左に向ける。



左

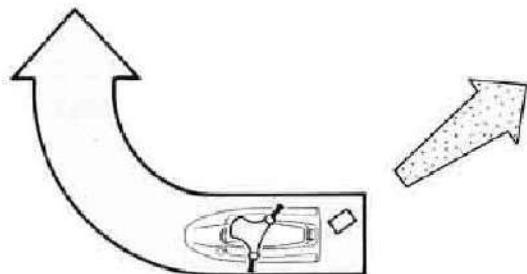
右旋回するためにはハンドルバーを右に向ける。



右

スロットルを使うことも、もう一つの旋回方法の重要な要素です。スロットルレバーを引くとジェットポンプにより推力が生じ、進路変更ができるようになります。

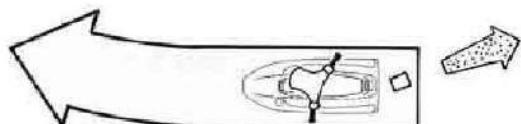
ジェットポンプの推力が強いとウォータークラフトは鋭く旋回します。



ジェットポンプの推力が弱いと緩く旋回します。



スロットルレバーを完全に放すとジェットポンプの推力が殆どなくなります。ウォータークラフトはゆっくりとまわり、旋回能力は低下します。

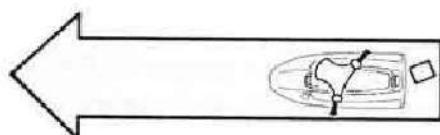


アイドリング=ゆっくりと徐々に旋回

▲警告

○スロットルレバーを完全に放すと、ウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかりことになります。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

航走中にエンジンを停止すると、ジェットポンプの推力がなくなり、ハンドルバーを回してもウォータークラフトは真っすぐに進みます。



無推力=旋回不可

▲警告

○再びスロットルを使ってウォータークラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないで下さい。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

次のことは緊急操作をするときに覚えておくことが大切なジェット推進ボートの特徴です。

旋回するには推力が必要なこと。

従って、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

●旋回に入る前に、スロットルをゆるめてスピードを落として下さい。

▲警告

○このウォータークラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、急旋回や急加速したときに同乗者が船外に投げ出され、他のボートに当たって事故になる恐れがあります。操縦者は急旋回等する前にまわりのボートに注意して下さい。また、同乗者は航走中必ずすぐ前の人との体につかまるか、シートバンドをつかんでいて下さい。

後進

- 離着岸時等、やむを得ない場合を除いて、なるべく後進は使わないで下さい。
- 前進から後進に移る前に必ず船が止まるまで減速して下さい。スロットルレバーを充分ゆるめるか、または完全に放します。減速するまで待ってからシフトレバーを“R(後進)”に入れます。

▲警告

○高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータークラフトのバウ(船首)が水中に突っ込んで、乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず減速し、また同乗者に安全のための注意を呼びかけて下さい。

- 後進方向の水面に他のボート、泳いでいる人達、または障害物等がないか確認し、目標を定めます。バックミラーだけに頼ってはいけません。よく見えないか、またはまったく見えないかも知れません。
- 徐々にスロットルレバーを引いて、ゆっくりと後進を始めます。

着岸

- 着岸するときは、ウォータークラフトのスピードと方向をコントロールするために、スロットルを効果的に使って下さい。
- 停止したい砂浜や岸辺に近づいてきたら、ストップボタンを押して下さい。砂がジェットポンプに入って損傷させることを防ぎます。水深80cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

注意

- ウォータークラフトを岸に乗り上げないで下さい。インペラや船体がひどく損傷することがあります。
- 浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないで下さい。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

- エンジンを止めると進路変更のコントロールが不可能になることを忘れないで下さい。従って、ウォータークラフトのスピードが充分落ち、停止位置寸前になってからエンジンを止めて下さい。いったんエンジンを止めると、非常事態の緊急回避ができなくなります。

ウォータークラフト“ジェットスキー”的り方

初めてウォータークラフトに乗った時は、シートにまたがって座ります。ウォータークラフトの扱い方に慣れて下さい。スロットルレバーを操作してエンジンスピードをいろいろ変え、スロットルが旋回にどう影響するか感触をつかんで下さい。

ウォータークラフトの船首が連続的に上下する状態(ポーパシング)が起きたら、体重をさらに前方へ移動して下さい。

▲警告

- ハンドルバーの真上にあごがくるような乗り方をしないで下さい。波にぶつかったとき、けがをすることがあります。

もし、燃料がきれてエンジンが止まっても（そのまえにLED（赤色）警告灯、燃料シンボル、最後のセグメントが点滅する）、チョークノブを回してはいけません。燃料ノブを“RES”の位置に回し、エンジンをもう一度始動します。常に他のポート、泳いでいる人達や、障害物に注意して下さい。

（要 点）

- “RES”（予備）の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給して下さい。
- 補給後はノブを必ず“ON”的位置にして下さい。

落 水：

操縦者がウォータークラフトから転落すると、コードキーがストップボタンから抜けて、エンジンは直ちに停止します。

▲警 告

- ウォータークラフトから落ちた時、ハンドルバーにしがみつかないで下さい。ウォータークラフトにぶつかってけがをする恐れがあります。

- 落水の最良の方法は、両足をそろえ、腕を頭上に上げ、しりから先に水面に落ちることです。
- ウォータークラフトの後部から上がります。コードキーをストップボタンの下に差し込み、スタータボタンを押してエンジンを始動します。

転覆したウォータークラフトの起こし方：

万一ウォータークラフトが転覆したときは、コードキーが操縦者に引っ張られてストップボタンから抜け、エンジンは停止します。

直ちに次の手順で船体を起こして下さい。

▲警 告

○このウォータークラフトは転覆しても自動復元しません。操縦者は適切なウォータークラフトの起こし方を知っているなければなりません。さもないと立ち往生することがあります。

- エンジンが停止したか確認します。もし停止していないければ、すぐにコードキーをストップボタンから抜くか、またはストップボタンを押してエンジンを停止させます。

注 意

○もし、ウォータークラフトが転覆したままでエンジンが回転し続けると、キャブレタやエンジンに水が入る恐れがあり、エンジンの内部部品の損傷の原因になります。

- 転覆した船の後部の角に泳いで行きます。
- 片手で手前の船側を押し下げ、もう一方の手を斜めに伸ばしてデッキの後部をつかみ、船底に伸び上がるようになります。



- 次に片方の足で船体後部の角を押し下げ、体重をかけながら手前へ回転させます。
- 船体が起き上がってきたら、必要ならば反対側の船側をつかんで船を完全に引き起します。
- 後部から船に上がります。コードキーをストップボタンに差し込み、スタータボタンを押してエンジンを始動します。

〈要 点〉

- ウォータークラフトがいったん転覆した場合は、熟練した操縦者がスロットルを全開にしてしばらくの間船を走らさねばなりません。こうするとビルジ装置が動いて、エンジンルームにたまつた水を排出することができます。
- もしエンジン内部に水が入った場合は、特別な処置が必要です。「特殊な手入れ」の項の「浸水後の処置」を参照して下さい。

第2：エンジンルームの清掃

- シートを取り外します。
- エンジンルームに水がたまっていたら、ドレンプラグを外して水を出して下さい。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- エンジンルームを拭いて乾かし、シートを取り付けます。
- ウォータークラフトを保管する場合は、エンジンルームの換気ができ、また結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に木片等をおいて、すきまをあけておきます。

航走終了後の手入れ

第1：排気系統の水抜き

- ウォータークラフトを水から引き揚げます。
- 余分な水を排気系統から出すためにエンジンを始動し、数秒間回転させます。排気口から水が出なくなる迄、くり返しエンジンをふかして下さい。

注 意

- 水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。
- 水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 海上で操縦した後は、そのたびに真水で冷却系統を洗浄して下さい。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）これは塩の固着による冷却系統の詰まりを防ぐのに役立ちます。

特殊な手入れ

インペラの清掃：

時折、海草や他の浮遊物がインペラやジェットポンプに詰まり、性能が低下することがあります。ジェットポンプを正常に作動させるために、これらの異物を完全に取除く必要があります。

- エンジンを止め、ウォータークラフトを水から引き揚げます。

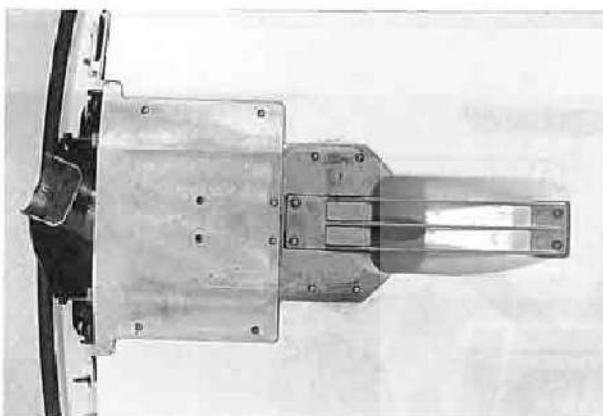
▲警 告

- エンジンが回転中にジェットポンプの清掃をしないで下さい。けがをする恐れがあります。ポンプを点検する前にエンジンを止め、キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いておいて下さい。

- コードキーを抜きます。
- タオルかパッドをウォータークラフトの横におきます。
- ウォータークラフトを左側に傾け、必要ならばジェットポンプの格子及びカバーを取り外して下さい。

注 意

- ウォータークラフトは必ず左側に傾けて下さい。右側に傾けると、排気系統内の水がエンジン内に入り、エンジン損傷の原因になります。



注 意

- ポンプのある場所や、関連部品がきれいになっているか確認して下さい。エンジン冷却水はジェットポンプによって供給されるので、ポンプの性能の低下はオーバーヒートの原因になります。

- ジェットポンプカバーと格子を取り付け、ボルトをしっかりと締めます。

汚れたスパークプラグの清掃：

スパークプラグの汚れはいくつかの原因で起こります。低いアイドリング速度、長時間のアイドリング運転、チョークを使用したまま航走した場合等です。また、燃料に水が混じっていたり、エンジン内部に水が入っている場合も、スパークプラグが汚れる原因になります。

- 汚れたスパークプラグを取り外し、きれいな乾

いたプラグを取り付けて下さい。汚れたスパークプラグはプラグクリーナで清掃して下さい。また、水のついたスパークプラグは、浸透性防錆剤で清掃します。

- エンジンを始動し、スロットルはほとんど使わないで下さい。

浸水後の処置：

注 意

- もしエンジン内に水が入ったならば、直ちに次の処置をして下さい。エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クランクシャフトペアリングやエンジンの内部部品を傷めます。

もしウォータークラフトが浸水したら、キャブレタの吸気口からエンジン内に水が入ることがあります。また、燃料タンクやオイルタンクにも水が入ることがあります。

1. ウォータークラフトを水から引き揚げ、シートを外します。
2. ドレンプラグを外し、エンジンルームの排水をします。
3. スパークプラグキャップをプラグから抜き、電装ボックスの上にあるスパークプラグキャップホルダにしっかりと差し込みます。そしてスパークプラグを取り外します。



A. スパークプラグキャップホルダ

4. イグニションスイッチを“ON”にしてからコードキーをストップボタンに差し込み、スタータボタンを押します。エンジン内の水がスパークプラグの孔から出てきます。スタータボタンは5秒以上押さないで下さい。もう一度スタータボタンを使用する時は、15秒以上間を開けて下さい。エンジン内の水が完全に出たか確認します。

▲警告

○この作業中は、エンジンの上にかがみこまないで下さい。スパークプラグ孔から水とガソリンの混合物が勢いよく噴出し、目に入ります。もし少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗って下さい。そして、できるだけ早く医者の診察を受けて下さい。

5. プラグキャップをホルダから抜きます。
6. スパークプラグの電極から水気をよくふき取り、プラグとプラグキャップを取り付けます。
7. チョークノブをいっぱい引き（“ON”位置）、エンジンを始動します。

注意

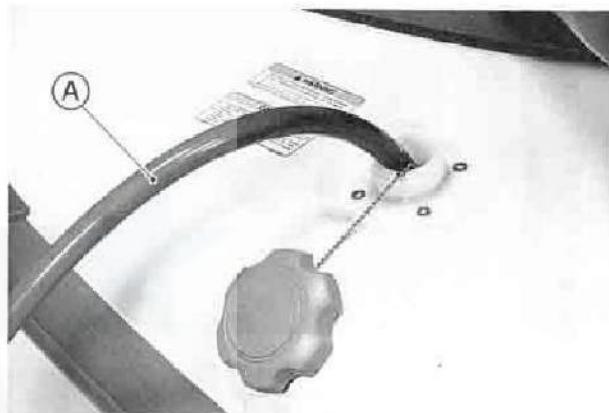
○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。
○水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。

8. もし、エンジンが始動しないならば、スパークプラグを取り外し、水気がないか点検します。浸透性防錆剤をスプレーして清掃し、再度始動して下さい。何度もプラグに水が付着するならば、燃料系統内に水気があります。
9. 燃料タンク内に水があれば、ポンプまたはサイフォンで全部抜きとります。燃料フィルタス

クリーンを清掃し、燃料フィルタを点検します。（「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）新しい燃料を入れます。汚れた燃料は決められた場所に捨てて下さい。

▲警告

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

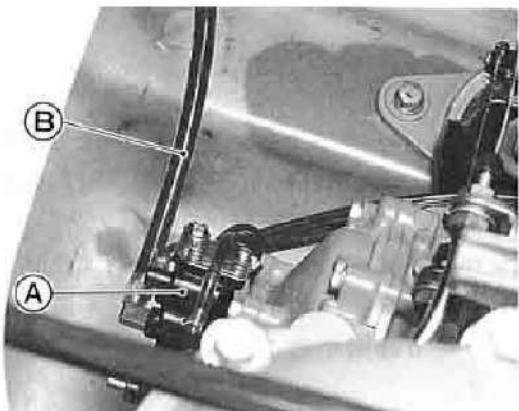


A. サイフォンホース

〈要点〉

○エンジンから全く水がなくなる迄、この方法を数回繰り返す必要があるかも知れません。繰り返しトラブルが起きるときは、水を排出するために燃料ポンプを分解する必要があります。販売店に相談してみて下さい。

10. オイルタンク内に水があれば、オイルを全部抜きとります。オイルポンプからインテークホースを外し、オイルを抜きます。



A. オイルポンプ B. インテークホース

11. ホースを元通りオイルポンプに接続し、新しいカワサキジェットスキー純正オイルを入れます。汚れたオイルは決められた場所に捨てて下さい。
12. オイルホース内の空気を抜きます。(「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。)
13. シートを取り付け、ラッチをロックします。
14. ドレンプラグをスター（船尾）に取り付けます。
15. 最後にウォータークラフトを水上に戻し、10分間以上走らせて残っている水を完全に乾かし、異物（塩など）を排気口から排出します。

ウォータークラフトのえい航：

燃料切れ、エンジントラブル、また、その他問題が起きた場合にはウォータークラフトをえい航してもらうことができます。6mのえい航用ロープの一端を船首の穴に結びつけ、もう一方の端をえい航ボートに結びつけます。えい航はゆっくりと行い、8km/h以上のスピードを出さないで下さい。

注 意

○この指示は重要ですから必ず守って下さい。
そうしないとエンジルームに浸水し、ウォータークラフトの一部が沈むことがあります。

ジャンプコードによる始動：

バッテリが上がった場合、取り外して充電する必要があります。それができない時は、他のウォータークラフト等の正常なバッテリとジャンプコードを使って始動することができます。その場合ウォータークラフトのバッテリと同じ電圧(12V)のものを使用して下さい。

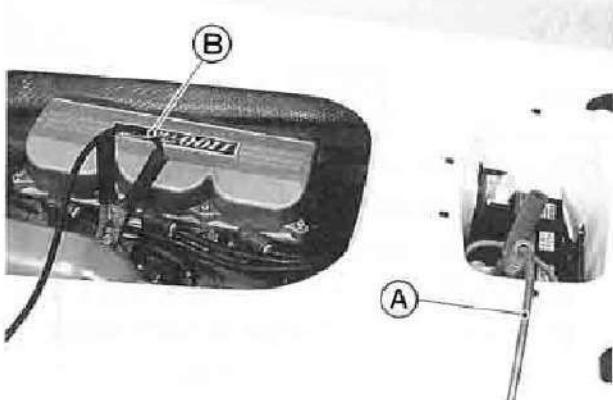
⚠ 警 告

○バッテリ液は条件によっては引火性及び爆発性がある水素ガスを発生します。このガスはバッテリ内に常時あり、放電しきった状態でも残っています。火気や火花をバッテリから遠ざけて下さい。またバッテリを取り扱っている時は、保護メガネを着用して下さい。バッテリ液が皮膚や目、衣類に付着した時は、直ちにその部分を水で5分以上洗い、医者の診察を受けて下さい。

- イグニションスイッチを“OFF”にします。
- シートを外し、工具を入れてある小物入れを取ります。
- 両方のバッテリの(+)ターミナル間をジャンプコードで接続します。
- 他のジャンプコードの一端を他の船のバッテリの(-)ターミナルに接続します。

注 意

○バッテリを反対の極[(+)から(-)]へ接続すると、電気系統に大きな損傷が生じます。



A. (+) コード

B. (-) コード

- もう一方の端をエグゾーストパイプのボルトに接続します。

▲警告

○最後の手順の接続を間違ってキャブレタやバッテリへしてはいけません。コードをショートさせないように注意し、上記の最後の作業をする時はバッテリの上に体を乗り出さないで下さい。また、凍結したバッテリをジャンプコードで始動させてはいけません。爆発する恐れがあります。

注意

- 5秒間以上連続してスタータを回さないで下さい。スタータがオーバーヒートします。スタータが冷えるように15秒間待ってから、また回して下さい。

- エンジンを始動させた後、上記の逆の順序でジャンプコードを取り外して下さい。

エンジンのオーバーヒート：

このウォータークラフトには、エンジンがオーバーヒートしたときにLED（赤色）警告灯と水温シンボルを点滅させ、エンジンの回転を落とす温度センサーがついています。

- 警告灯と水温シンボルが点滅してウォータークラフトのスピードが落ちたときは、直ちに岸に戻って冷却系統が詰まっているか点検して下さい。

注意

- エンジンがオーバーヒートすると、警告灯と水温シンボルが点滅してエンジンの回転が下がります。直ちに岸に戻り、冷却系統を点検して下さい。エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを操縦しないで下さい。

運搬

ウォータークラフトをトレーラー等でけん引するときは、けん引に関する諸法規、規則を必ず守って下さい。

- ウォータークラフトの重量と形状にマッチしたトレーラーを使用して下さい。不適格なトレーラーで運搬することは安全面で問題があります。
- 燃料ノブを“OFF”の位置にします。
- トレーラーの上で動かないようにしっかりと固定して下さい。

注意

- シート後方のグリップや、その下のリポーディンググリップに船体固定用ベルト等をかけないで下さい。
- 船尾の速度検知用の水車に、ものがあたらないように注意して下さい。

保 管

冬の間や、長時間ウォータークラフトを使用しない時は、適切な保管が必要です。無くなつた部品がないか点検し、摩耗した部品を交換したり、防錆のために各部への注油、潤滑、また一般的には次回ウォータークラフトを使用する時、最良のコンディションにしておくための準備をしておきます。カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で行ってもらうか、または次の事項を実施して下さい。

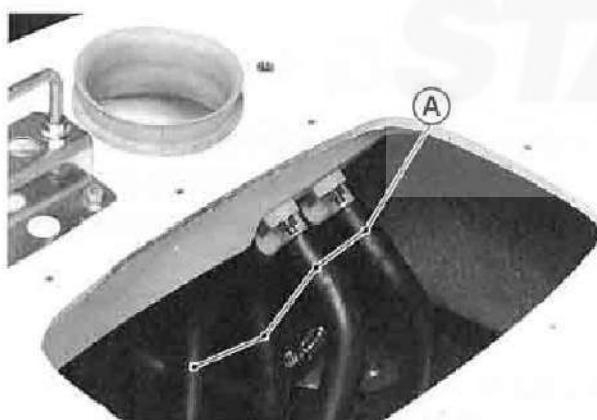
保管する前の作業

冷却系統

- 冷却系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）

ビルジ系統

- ビルジ系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「ビルジ系統の洗浄」の項参照。）このとき、ホースをプラスチックのブリーフに再び接続する前に、両方のホースに圧搾空気を吹き込んで、ビルジ系統から水を完全に押し出して下さい。



A. 両方のホースに空気を吹き込む。

燃料系統

⚠ 警 告

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

- サイフォンまたはポンプを使って、燃料タンクから燃料を抜いて下さい。
- 燃料フィルタスクリーンを清掃し、燃料フィルタを点検または交換します。（「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）
- 燃料タンク内の結露を防ぐために、燃料注入ロッドキャップを緩めたままにしておいて下さい。
- イグニションスイッチを“ON”にします。
- キルスイッチコードキーをストップボタンに差し込んでエンジンを始動し、キャブレタ内の燃料を使い切るまで、15秒間づつ回転させます。各回転は5分間隔で行います。
- コードキーをストップボタンから抜き、イグニションスイッチを“OFF”にします。

注 意

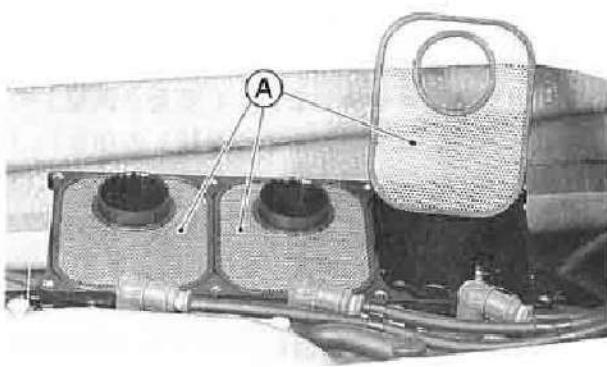
○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- キャブレタから空気吸入口カバーを取り外します。



A. 空気吸入口カバー B. ボルト

- フレームアレスタエレメントを取り外し、必要な場合は圧搾空気で清掃します。



A. エレメント

- キャブレタ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- フレームアレスタエレメントを取り付けます。上下の区別はありません。
- カバーを取り付け、しっかりとボルトで締めます。

エンジン

- スパークプラグを取り外し、プラグキャップをプラグキャップホルダに差し込みます。
- 各シリンダ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- イグニションスイッチを“ON”にします。
- キルスイッチコードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンでエンジンを数回回転させ、シリンダの内側にオイルを行きわたらせます。

▲警告

○この作業中は、エンジンの上にかがみこまないで下さい。スパークプラグ孔から防錆剤が霧状になって勢いよく噴出することがあり、目に入る恐れがあります。もし少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗って下さい。そして、できるだけ早く医者の診察を受けて下さい。

- コードキーをストップボタンから抜き、イグニションスイッチを“OFF”にします。
- スパークプラグとプラグキャップを取り付けます。

バッテリ

- バッテリを取り外します。（「整備と調整」の章の「バッテリ」の項参照。）
- 重ソウと水の溶解液で外部を清掃します。水でよくゆすぎます。

注意

○密封栓は絶対に取り外さないで下さい。バッテリが損傷します。

- 両方のターミナルにグリースを塗ります。
- バッテリを乾燥した涼しい場所に保管します。温度が氷点下になる場所にはおかないで下さい。また、保管中は大体月に1回補充電して下さい。

洗浄

- エンジンルームを水洗いし、ドレンプラグを外して排水します。残った水はきれいに拭き取ります。
- 船体の外部を水洗いし、完全に乾かします。

注意

○ウォータークラフトを洗う場合は、洗浄力の弱い洗剤を水に混ぜたものだけを使用して下さい。強力な溶剤は化学作用で表面塗装を変色させることができます。

- 良質のワックスを船体の外面全体に塗ります。
- すべての露出している金属部品に、錆や腐食防止のため浸透性防錆剤を軽くスプレーします。
- 適当な換気が行われ、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に10mm位の木片等をおいてすき間をあけておきます。
- ウォータークラフトにカバーを掛け、ほこりのない乾燥した場所に保管します。

潤滑

- すべての推奨潤滑方法を実施して下さい。（「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。）

保管後再使用する前の作業

以下の作業は保管期間終了後、ウォータークラフトを使用できる状態に戻すために必要な手順です。カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で行ってもらうか、または次の事項を実施して下さい。詳細については、「整備と調整」の章を参照して下さい。

- すべての推進潤滑方法を実施して下さい。（「潤滑」の項参照。）
- スロットル、チョーク、ステアリング及びシフト機構が動かなかったり、途中でひっかかったりしないか点検します。スロットルレバーは放すと完全にもとの位置にもどらなければなりません。
- スパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。（「スパークプラグ」の項参照。）
- すべてのゴムホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 保護パッドを敷いてウォータークラフトを左へ傾け、ジェットポンプカバーを取り外します。冷却ホースとビルジホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 必要なら良品と交換して下さい。カバーを取り付け、しっかりと固定します。
- ドレンプラグがしっかりと取り付けられているか点検します。
- バッテリのターミナルを清掃し、必要ならば補充電します。バッテリを取り付けて下さい。（「バッテリ」の項参照。）
- 燃料フィルタスクリーンや燃料フィルタを点検または交換します。（「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）
- 燃料タンクにガソリンを入れ、燃料注入口キャップをしっかりと締めます。

▲警告

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないか確かめて下さい。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、ケースを取り出し、シートを外してエンジンルームを数分間換気して下さい。

▲警告

○気化したガソリンがエンジンルームにたまる
と、火災や爆発の原因となることがあります。

- 燃料漏れを点検し、必要があれば修理して下さい。
- オイルフィルタを点検、清掃します。
- オイルの量を調べ、少なければ規定のオイルを補充します。

▲警告

○密閉された場所でエンジンを運転しないで下さい。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

- エンジンを始動し、15秒間運転します。燃料、オイル及び排気ガス漏れを点検して下さい。漏れがあれば必ず修理して下さい。

注意

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

○水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。

- シートを取り付け、ラッチをロックします。

整備と調整

定期整備表

〈要 点〉

- 毎日乗る前には必ず「乗る前の点検項目」の点検を実施して下さい。

実施項目	頻 度	最初の 10時間後	25時間毎	100時間毎
すべてのホースクランプ、ナット、ボルト及びファスナを点検する。	●	●		
※シリンダヘッドナットを締める。	●	●		
キャブレタ部のスロットルケーブル取付部及びチョークケーブル取付部を潤滑する。		●		
スパークプラグを清掃し、ギャップを点検し、必要ならば交換する。		●		
チョークケーブルとスロットルケーブル及びスロットルケースのケーブル取付部を潤滑する。		●		
ステアリングケーブル、シフトケーブルのボールジョイントと、ステアリングノズル、リバースパケットのピボットを潤滑する。		●		
※ハンドルバー・ビボットを潤滑する。		●		
燃料フィルタスクリーンを検査、清掃する。		●		
※燃料フィルタを検査、交換する。				●
キャブレタを調整する。		●		
ビルジ系統及びフィルタを洗浄する。		●		
冷却系統を洗浄する（海上で操縦した時は使用後毎回）。		●		
フレームアレスタを検査及び清掃する。		●		
※インペラのブレードの損傷を検査する。				●
※カッピングダンバを検査、交換する。			●	
※キャブレタのスロットルシャフトのスプリングを検査する（もし必要ならばキャブレタを交換する）。				●
※ステアリングケーブル、シフトケーブルを点検する。				●

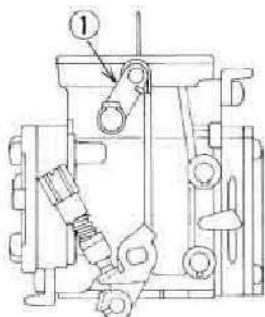
※これらの項目は適正な工具を用いて行わなければなりません。適切な設備がなく、また、機械の取扱いに熟練していなければ、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で実施してもらって下さい（サービススマニュアル参照）。

コントロールケーブルの調整

チョークケーブルの調整

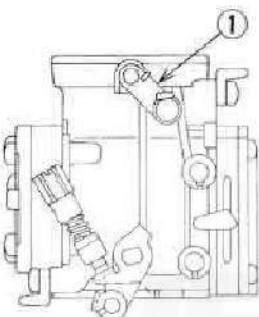
- チョークノブが中へいっぱい押し込まれているとき（“OFF”位置）、キャブレタ内のチョークバタフライバルブは完全に開いていなければなりません。チョークのピボットアームが船の右側にいっぱい向いており、ケーブルがわずかに緩んでいるか点検します。

チョーク閉
(ノブが“OFF”位置)



1. チョークピボットアーム

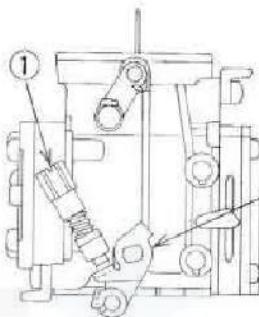
チョーク閉
(ノブが“ON”位置)



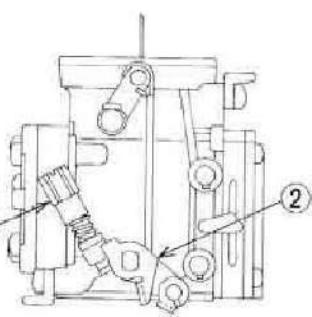
スロットルケーブルの調整

- スロットルケーブルの調整具合を点検します。
- スロットルレバーを全く放した状態では、スロットルピボットアームの下側のストッパーがアイドルアジャストスクリューに当たっており、スロットルケーブルはわずかに遊びがあります。
- スロットルレバーをいっぱい引いたとき、ピボットアームの上側のストッパーがキャブレタのストッパーに最大限に近接しています。

スロットル閉
(レバーを放した状態)



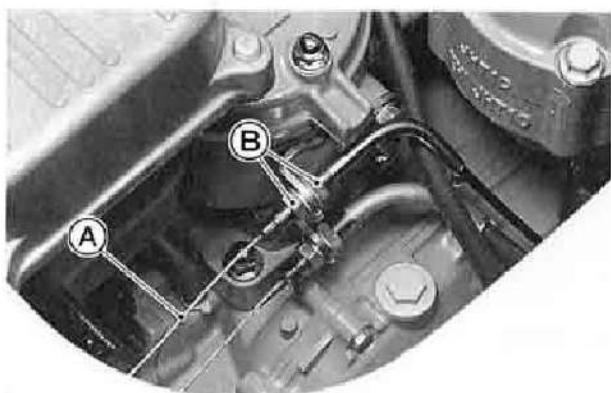
スロットル開
(レバーをいっぱい引いた状態)



1. アイドルアジャストスクリュー
2. スロットルピボットアーム

- 必要ならばチョークケーブルを調整して下さい。

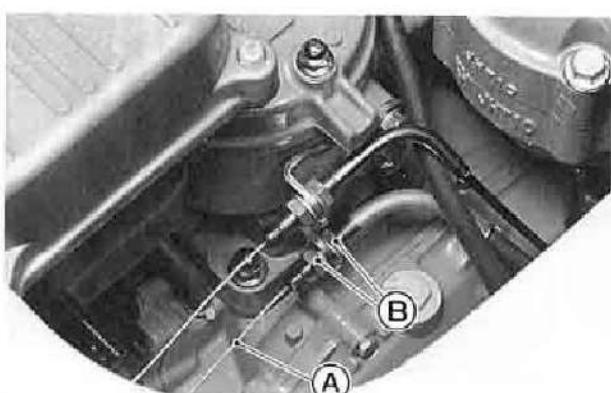
- チョークノブをいっぱい押し込みます（“OFF”位置）。
- ケーブルブラケットにあるロックナットを緩めて回し、ケーブルに少しの遊びを持たせます。
- ロックナットをしっかりと締めます。



A. チョークケーブル

B. ロックナット

- 必要ならばスロットルケーブルを調整します。
- ケーブルブラケットのロックナットを緩めます。ピボットアームの下側のストッパーがアイドルアジャストスクリューに当たるようにします。次にロックナットを回して、ケーブルに少しの遊びを作ります。
- ロックナットをしっかりと締めて下さい。



A. スロットルケーブル

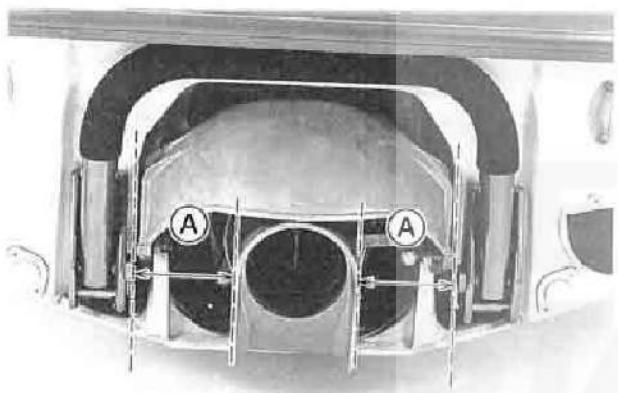
B. ロックナット

ステアリングケーブルの調整

- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。

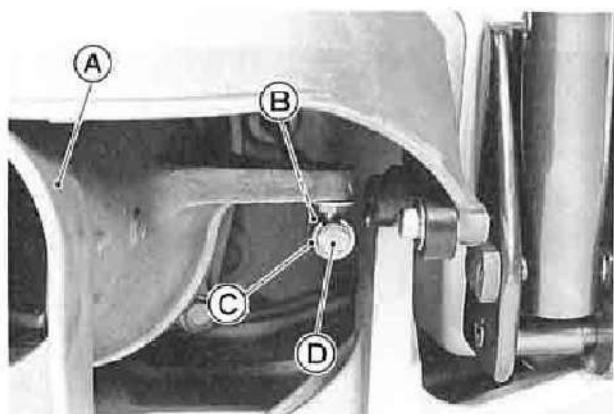


- ステアリングノズルがノズル室の両側から同じ距離にあるか点検します。



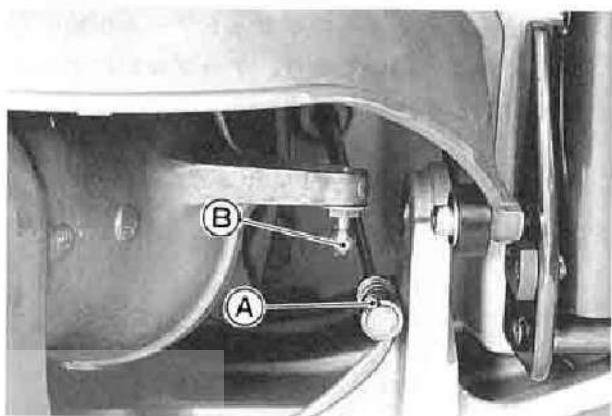
A. 等距離

- 同じ距離でなければ調整します。
- ステアリングノズル右側のステアリングリンクのロックナットを緩めます。



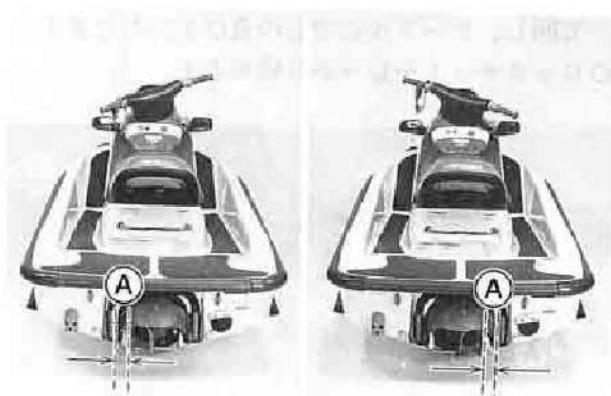
A. ステアリングノズル
B. ロックナット
C. スリーブ
D. ボールジョイント

- アウタースリーブを少しずらして、ボールからボールジョイントを外します。
- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。
- リンクのボールジョイントをまわして、ステアリングノズルがノズル室の中央に位置しているときに穴がボールの位置に合うようにします。



A. ボールジョイントの穴 B. ボール

- ボールにボールジョイントを接続し、もう一度ステアリングケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかりと締めます。
- もう一つの点検方法として、ハンドルを左右にいっぱい切れます。ステアリングノズルの左右の端からノズル室までの隙間を計り、それが同じであれば正確に調整されています。



A. 等距離

ステアリングケーブルの点検

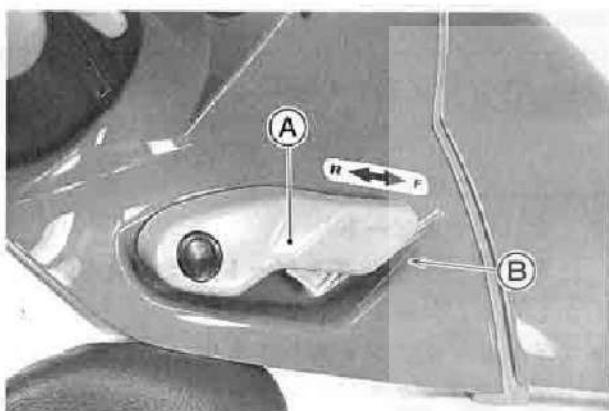
ステアリングの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられた時は、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で点検を受けて下さい。

〈要 点〉

- ステアリングケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

シフトケーブルの調整

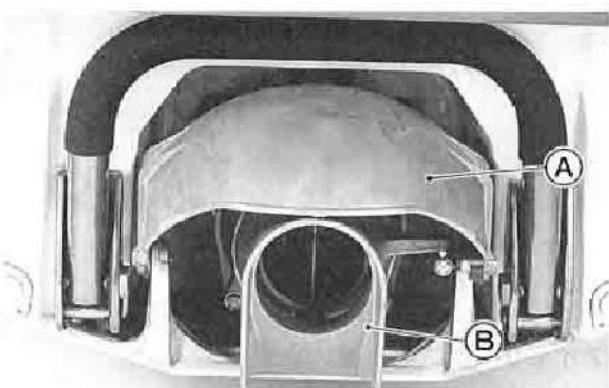
- シフトレバーを “F (前進)” の位置に入れます。



A. シフトレバー

B. “F (前進)”

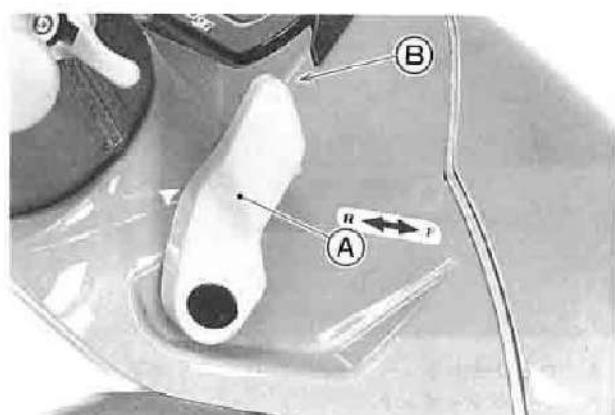
- このとき、スター（船尾）にあるリバースパケットに少し遊びがあり、手で押し下げてもパケットの下端はステアリングノズルの上端より上に位置します。



A. リバースパケット

B. ステアリングノズル

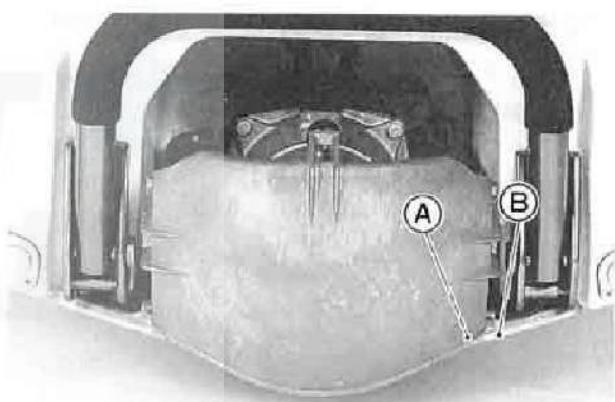
- シフトレバーを “R (後進)” の位置に入れます。



A. シフトレバー

B. “R (後進)”

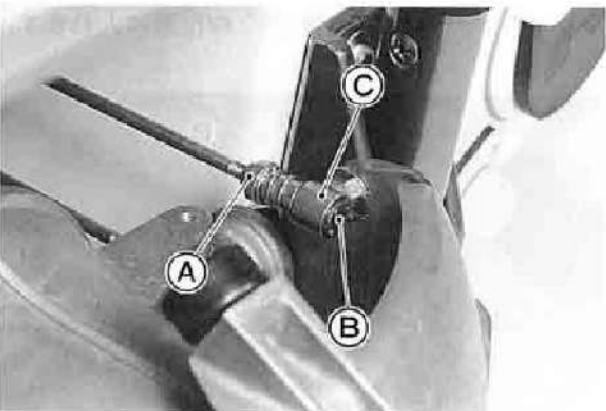
- このとき、リバースパケットの下端右側のダンパが、ポンプカバーの底面に当たっています。



A. ダンパ

B. ポンプカバー

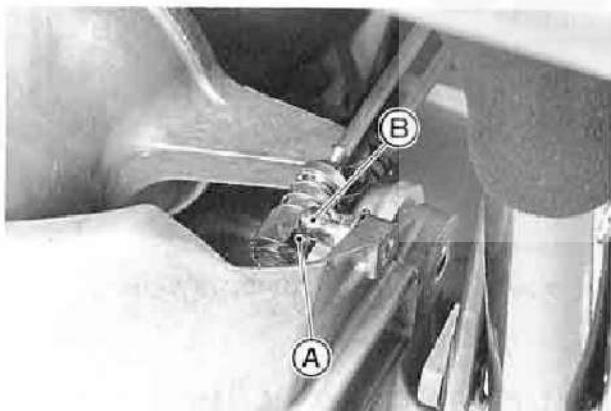
- もしどちらかでも異なっていれば、シフトケーブルを調整します。
- シフトレバーを “R (後進)” の位置に入れます。
- シフトリンクのボールジョイントのロックナットをゆるめます。



A. ロックナット
B. ボールジョイント

C. スリーブ

- アウタースリーブを少しづらして、ボールからボールジョイントを外します。
- リンクのボールジョイントをまわして、シフトレバーが“F(前進)”の位置にあるとき、パケットに2~3mmの遊びがあり、手で押し下げてもパケットの下端がノズルの上端より上にあるように調整します。



A. ボールジョイントの穴

B. ボール

- ボールにボールジョイントを接続し、もう一度シフトケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかりと締めます。

シフトケーブルの点検

シフトケーブルの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられたときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキ”の販売店で点検を受けて下さい。

〈要 点〉

○シフトケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

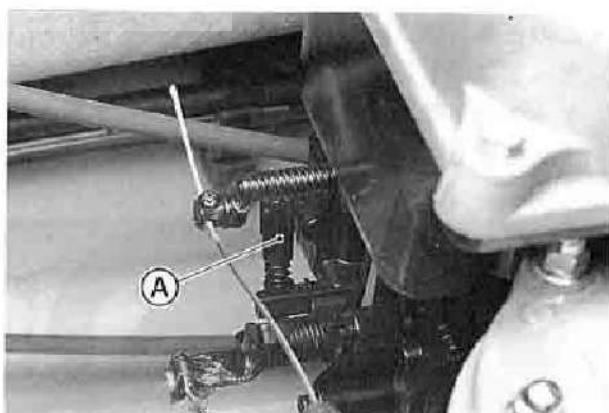
燃料、エンジンオイル系統

キャブレタの調整：

アイドリングスピード

正常なアイドリングスピードとは、最も低い、しかし安定したスピードを言います。

- アイドリングアジャストスクリューを右へ回すとアイドリングスピードは上がり、左へ回すと下がります。



A. アイドリングアジャストスクリュー

アイドリングスピード

水上……約1,250 rpm

陸上……約1,800 rpm

ミクスチュアスクリュー

キャブレタは出荷前に工場で測定器を使って一つひとつ調整されていますので、すべてのキャブレタに共通する特定のセッティングはありません。そのキャブレタに最適のセッティングがなされた後、キャップが取り付けられています。従ってキャップのレバーを動かしたり、キャップを外してミクスチュアスクリューの位置を変えたりしないで下さい。

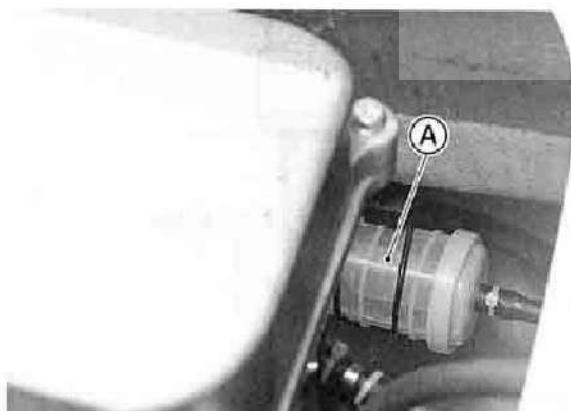
〈要点〉

- 調整の必要があるときは、カワサキの販売店で調整してもらって下さい。

燃料フィルタスクリーン、燃料フィルタ：

ウォータークラフトには、キャブレタにゴミや異物が入るのを防ぐため、燃料アウトレットアッシュに燃料フィルタスクリーンが、また燃料ホースの中間に燃料フィルタが付いています。

「定期整備表」の規定に従って、あるいは燃料フィルタにゴミや水が見えたときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でフィルタスクリーンやフィルタを検査、清掃、または交換してもらって下さい。



A. 燃料フィルタ

オイルフィルタ：

オイルタンクの注入口に、オイルフィルタがついています。オイルを注入するたびに、フィルタにゴミなどがたまっているか点検して下さい。もしたまっている場合は、フィルタを清掃します。

オイルフィルタの清掃

- オイル注入口からオイルフィルタを取り出します。



A. オイルフィルタ

- オイルフィルタを洗浄油で洗い、詰まった汚れはブラシで落として下さい。

▲警告

- フィルタの清掃は、通気性の良い、火気のない場所で行って下さい。
- ガソリンとか引火性の強い洗浄油は、フィルタの洗浄には使用しないで下さい。

- オイルフィルタを元通りにオイルタンクの注入口にはめ込みます。

オイルポンプの空気抜き：

オイルポンプに接続しているホースのうちどれでも外したときは、ホースの内部に空気が入り、オイルの流れを妨げることがあります。

- オイルタンクに十分オイルがあり、オイルがスムーズに流れる状態にあることを確認します。
- オイルポンプの下に布を敷きます。
- オイルポンプについている空気抜きスクリューを2回転緩め、オイルが流れ出たらスクリューをしっかりと締めます。



A. 空気抜きスクリュー

- オイルホース内部に気泡が残っていないか、オイルタンクからオイルポンプまで点検します。

注 意

○オイル系統に空気が入っていると、オイルの流れを妨げ、その結果エンジンの損傷の原因になります。もし気泡が残るようであれば、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキ”の販売店で、オイル系統の空気抜きをしてもらって下さい。

- エグゾーストパイプ後端の冷却ホース取付部から水を送って、エンジンを十分冷却します。（「冷却系統の洗浄」の項参照。）

注 意

○水を流す前に必ずエンジンをかけておいて下さい。また、エンジンを止める前に水を止めて下さい。
○冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないで下さい。過熱からエンジンと排気系統に損傷をひき起こすもとになります。

- エンジンを始動し、アイドリング状態でオイルが透明なアウトレットホースを通っているか点検します。

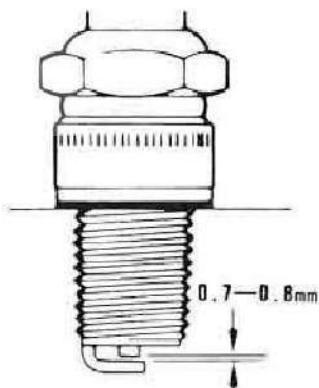
- アウトレットホースの中の気泡がなくなるまで、エンジンを回しておきます。

スパークプラグ

「定期整備表」の規定に従ってスパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。

標準のスパークプラグはNGK BR9ESで、ギャップを0.7~0.8mmに調整して使用して下さい。

ウォータークラフトのエンジンは水冷で、一般的に一定のスロットル開度で運転されるので、シリンダヘッド温度は比較的安定しています。従って、エンジンの調子がよく、調整も適切で、オイルポンプが正常に作動していれば、熱値の異なったスパークプラグを使用する必要はありません。間違った熱値のスパークプラグを使用すると、エンジンの広範囲な損傷の原因となるので、標準のスパークプラグのみ使用して下さい。



スパークプラグの検査及び交換

スパークプラグを取り外し、絶縁碍子を検査します。電極のまわりの絶縁碍子を見ると燃焼状態がわかります。エンジンが適正に運転されていると、絶縁碍子はきれいで薄褐色をしています。絶縁体が白くなり過ぎたり、プラグに灰色の金属性の付着物があるなら、燃焼室の温度が高過ぎます。「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。

注意

- 過度の運転温度はエンジンに重大な損傷を起こすので、原因をつきとめ直ちに修正して下さい。

絶縁碍子に乾いたすすのような黒い堆積物がある時は、燃料と空気の混合が濃過ぎることを示しています。キャブレタが正しく調整されているか点検して下さい。黒い堆積物が湿って油気を帯びている時は、オイルのタイプが不適当か、オイルポンプのオイル吐出量が過度であることが考えられます。「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。

堆積物をかき落とすか、プラグクリーナを使って、両電極や中心電極のまわりの碍子を清掃します。プラグから研磨粉等を完全に除去した後、洗浄油で清掃します。ギャップが広がっていれば、0.7~0.8mmに調整します。電極が腐食または焼損していれば、プラグを交換します。絶縁碍子のひび割れ、またはネジ部の損傷等目に見える損傷がある時は、いつでもプラグを交換して下さい。

バッテリ

このウォータークラフトはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用しています。従って、バッテリ液の点検や補充の必要はありません。新品のバッテリにバッテリ液がいったん入れられたら、密封栓を外さないで下さい。またこのウォータークラフトは、MFバッテリのみ使用するように設計されていますので、通常のバッテリと交換しないで下さい。

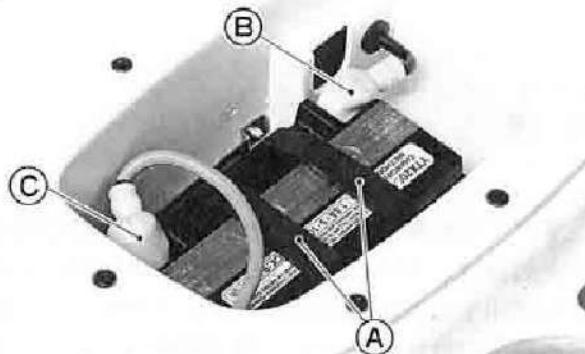
注意

- 密封栓は絶対に外さないで下さい。バッテリが損傷します。
- 通常のバッテリを使用しないで下さい。電気系統が正しく機能しません。

〈要点〉

- MFバッテリを補充電するときは、バッテリのラベルの指示に必ず従って下さい。

バッテリの取外し



A. ゴムバンド
B. 黒リード線（アース）
C. 赤リード線

- シートを外し、工具の入った小物入れを取ります。
- 最初にバッテリから黒色のリード線（アース）を外します。
- 次に赤色のリード線を外します。
- バッテリを固定している二本のゴムバンドを外します。
- バッテリを取り出します。
- ターミナル部に汚れや腐食があるときは、ぬるま湯を注いで拭いて下さい。
- 腐食が著しい場合は、ターミナル部を取り外し、ワイヤブラシ、サンドペーパーで磨きます。
- 清掃、締め付け後は、ターミナルに耐水グリースを薄く塗っておきます。

バッテリの取付け

- バッテリを取り外した時と逆の順序で取付けます。
- バッテリを接続した後、ターミナルに耐水グリースを塗ります。

注 意

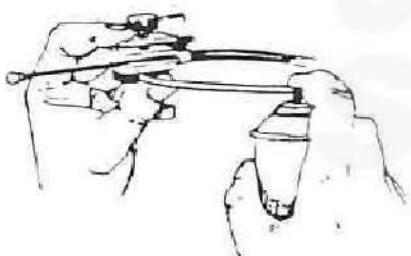
○バッテリの (+) と (-) を逆に接続しないで下さい。レギュレータや整流器が損傷します。

潤 滑

すべての船舶と同じように、適切な潤滑と腐食防止処置は、ウォータークラフトを長期間、故障なく使用するために絶対必要なことです。下記箇所の潤滑回数については、「定期整備表」及び「乗る前の点検項目」を参照して下さい。

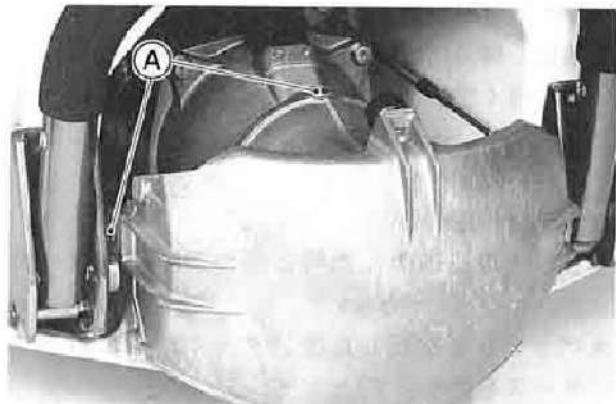
●下記の箇所に浸透性防錆剤をスプレーします。

チョークケーブル及びスロットルケーブル



ケーブルルーペを使ってケーブルの潤滑をする

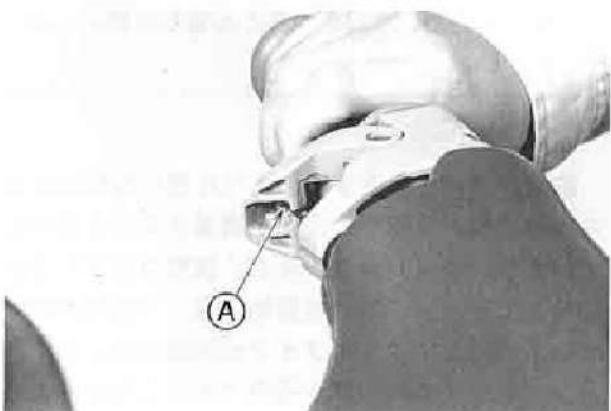
ステアリングノズル、リバースバケットのピボット



A. ピボット

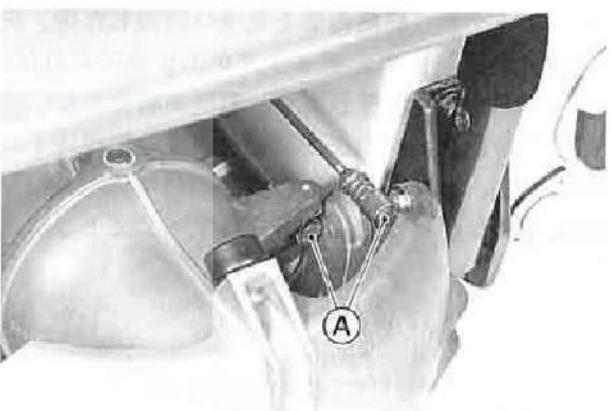
●下記の箇所に良質の耐水グリースを塗ります。

スロットルケースのケーブル取付部



A. グリースを塗布

ステアリングリンク、シフトリンクのボールジョイント



A. ボールジョイント

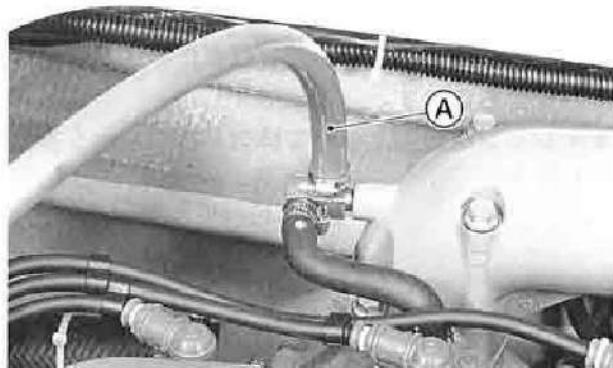
キャブレタのスロットルケーブル取付部及びチョークケーブル取付部



A. グリースを塗布

注 意

- ハンドルバーピボットの分解と潤滑はウォータークラフトの販売店で行ってもらって下さい。



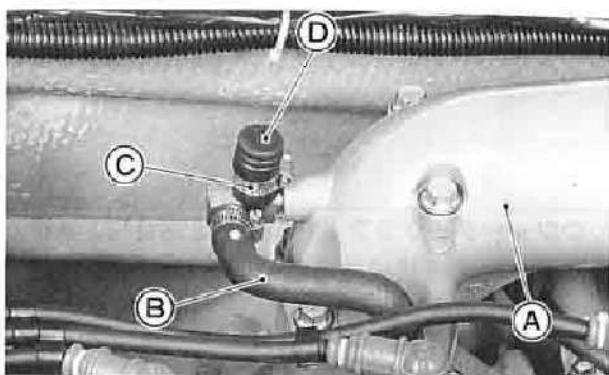
A. 水道ホース

冷却系統の洗浄

冷却系統に砂や塩分が堆積するのを防ぐため、ときどき洗浄する必要があります。以下の作業を「定期整備表」に従って行うか、または、海上で使用した後は毎回、また、船体の右側にあるバイパス出口から出てくる水が減ったときはすぐに行って下さい。

この方法はまた、陸上の整備でエンジンに冷却水を送る必要のあるとき（例えばオイルポンプの空気抜き）にも使われます。

- シリンダヘッドとエグゾーストパイプをつないでいる冷却ホースのエグゾーストパイプ側の取付部に、ゴムのキャップがあります。



A. エグゾーストパイプ
B. 冷却ホース

C. クランプ
D. キャップ

- 水道の蛇口を開ける前に、エンジンをかけ、アイドリングさせます。

注 意

- 水を流す前に必ずエンジンをかけておいて下さい。先に水を流すと、エグゾーストパイプを通ってエンジン内に水が逆流して、内部を損傷する恐れがあります。

- エンジンをかけたらすぐに水道の蛇口を開け、船体の右側にあるバイパス出口から水がわずかに出てくる位に水量を調節して下さい。



A. バイパス出口

- クランプをゆるめてキャップを外し、そこに水道のホースを接続します。

- 水を出したままエンジンを数分間アイドリングさせます。
- 蛇口を閉めます。エンジンはまだアイドリングさせておきます。
- エンジンを数回ふかせて排気系統から水を排出します。

注意

○冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないで下さい。過熱からエンジンと排気系統に重大な損傷を引き起こすもとにあります。

- エンジンを止め、ホースを外し、元通りにキャップを取り付けてしっかりとクランプを締めます。

ビルジ系統の洗浄

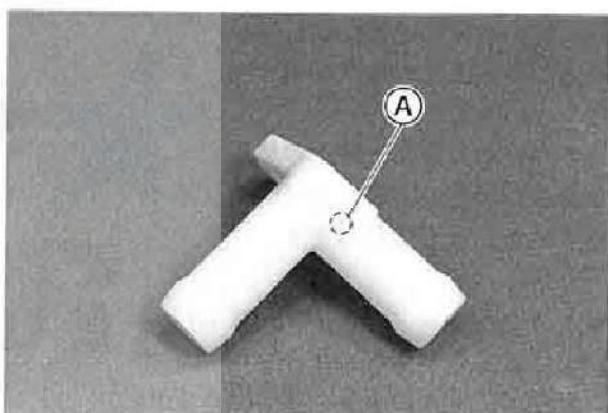
詰まりを防ぐためにビルジ系統を「定期整備表」に従って洗浄するか、または、詰まっていると疑われるときはすぐに洗浄して下さい。

- それぞれのプラスチックのブリーザから両方のビルジホースを外して下さい。ブリーザはエンジンルームの左後方上側にあります。



A. ブリーザ

- ビルジフィルタ側のホースに水道ホースを接続し、水を出して約1分間洗浄します。この間、水がエンジンルームに入りますが、たくさんまらないようにします。スター（船尾）のドレンプラグを外してエンジンルームの水を出します。
- 反対側のホースに水道ホースを接続し、水を出して数分間洗浄します。
- それぞれのプラスチックのブリーザにホースをもと通り接続する前に、ブリーザの小さな孔が詰まっていないか確かめて下さい。もし孔が詰まっているれば、エンジンが停止したときやアイドリング状態のとき、ホースを通って水がどんどんエンジンルームに入ってくることがあります。ブリーザを外す必要があるかも知れません。



A. ブリーザの孔

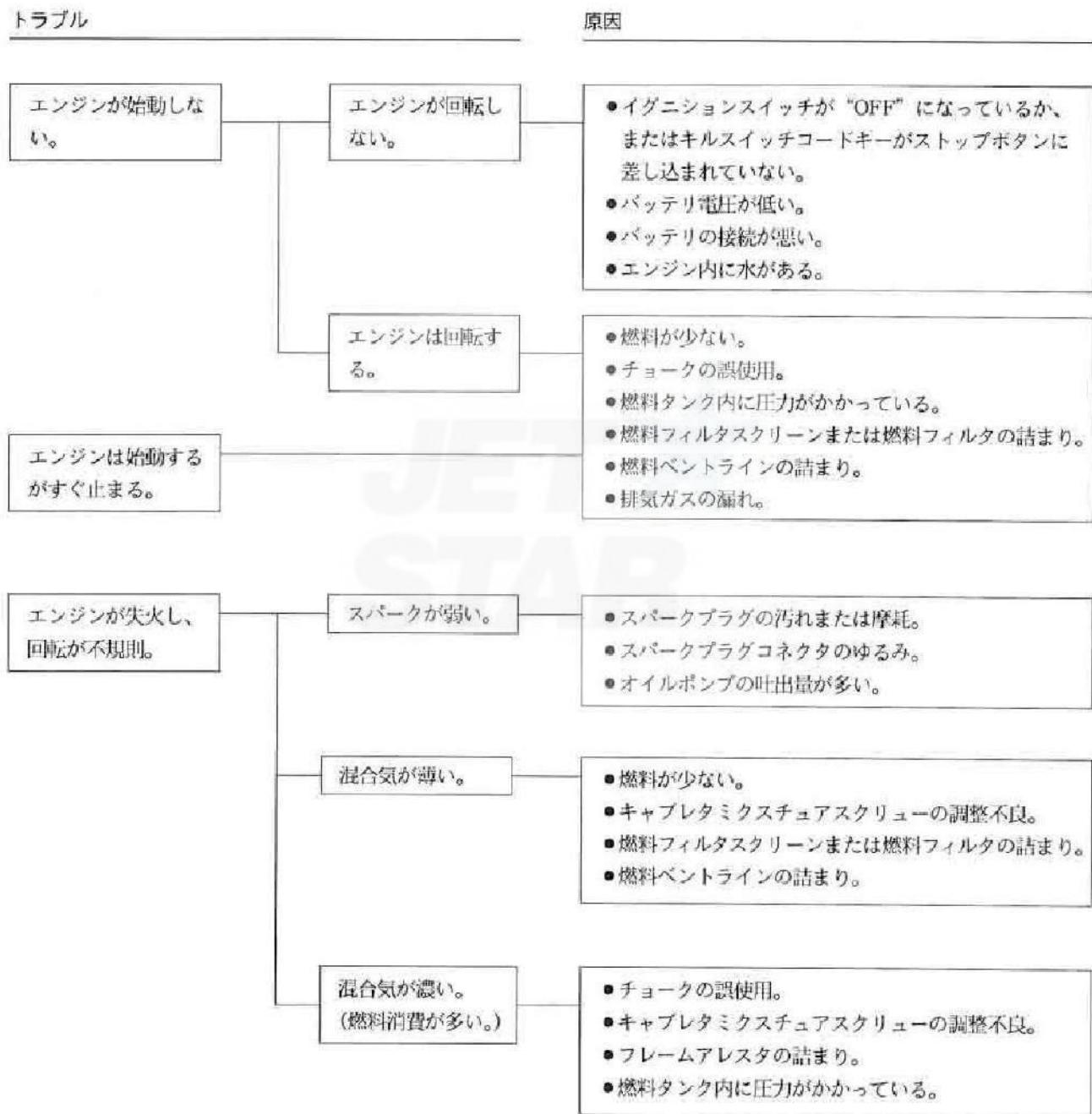
- すべてのビルジホースをもと通りに接続します。

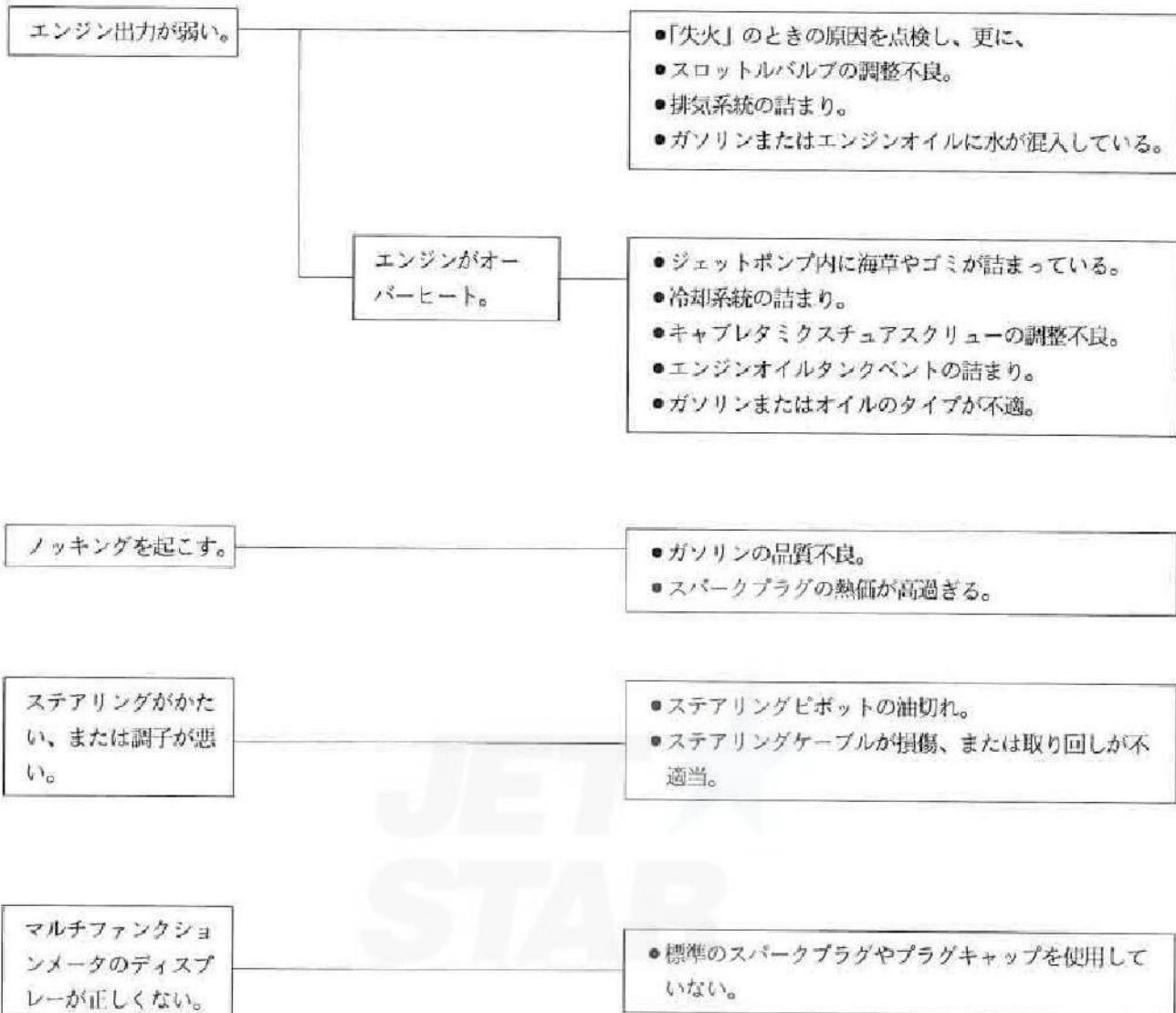
〈要点〉

○ウォータークラフトを保管する場合は、ビルジホースを接続する前に両方のホースに圧搾空気を吹き込んで下さい。（「保管」の章の「ビルジ系統」の項参照。）

トラブルシューティング

- ここに示す方法ではあなたのウォータークラフトのトラブルが確定できないときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店に相談するか、サービスマニュアルを参照して下さい。





▲警告

○ステアリング装置に故障があれば非常に危険ですので、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でよく調べてもらって下さい。

船舶検査

船舶検査

ウォータークラフト“ジェットスキー”は、法律(船舶安全法)に基づいて日本小型船舶検査機構の行う検査を受けなければ使用できません。

検査の種類

検査には最初に使用を始める時、および6年毎に行う定期検査と、その中間の3年毎に行う中間検査があります。

・定期検査

定期的に行う精密な検査

・中間検査

定期検査と定期検査との間で行う簡易な検査

船舶検査証書など合格証書類

(1) 定期検査の場合

船検に合格した小型船には、①船舶検査証書②船舶検査手帳 ③船舶検査済票(年票と番号票を各2枚)が渡されます。

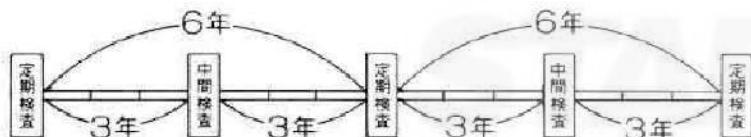
上記①および②の証書類は、ウォータークラフトを使うときには必ず船内に備えて下さい。また、③の検査済票(通称「船検ナンバー」)は、ウォータークラフトの両側の外から見やすい位置に必ず貼りつけて下さい。

船舶検査証書の有効期間は6年です。

(2) 中間検査の場合

中間検査に合格した小型船には、船舶検査証書と船舶検査手帳が返されるときに、中間検査済票1枚が渡されます。この中間検査済票は、中間検査に合格した小型船のしるしですから、これを左舷の船舶検査済票の近くに貼って下さい。

船検の時期



なお、定められた中間検査日または定期検査日より繰り上げて検査を行う場合は、繰り上げが1ヶ月以内であれば次回定期検査日または中間検査日が早くなることはありません。

航行区域

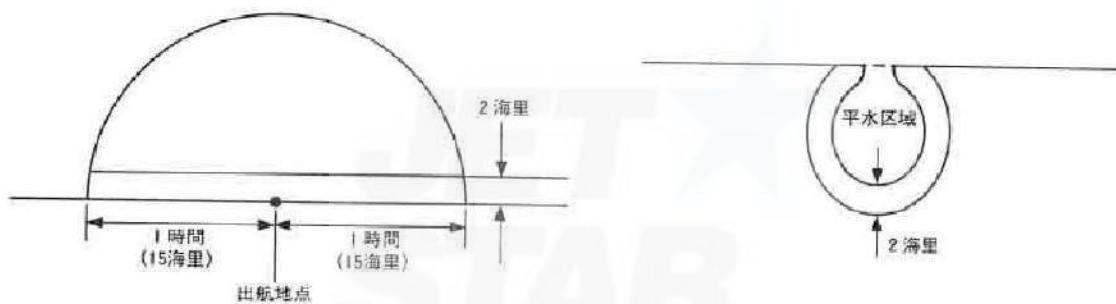
法律（船舶安全法）により、ウォータークラフト“ジェットスキー”が航走できる区域は次のように定められています。

- 注：1) 船舶安全法施行規則第1条第6項とは、平水区域（湖、川、港内、湾などの波の静かな水域）を指します。
2) 法律では、平水区域は沿海区域に含まれます。

海岸あるいは陸岸で使用する場合

沿海区域で、

- (1) ウォータークラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内(30海里、約56km以内)で往復できる水域のうち、海岸から2海里(約3.7km)以内の水域、および
(2) 船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の陸岸から2海里(約3.7km)以内の水域。



母船に乗せて使用する場合

沿海区域で、

- (1) 母船から半径2海里(約3.7km)以内の水域、
(2) ウォータークラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内(30海里、約56km以内)で往復できる水域のうち、海岸から2海里(約3.7km)以内の水域、および
(3) 船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の海岸から2海里(約3.7km)以内の水域。

注意

- 母船に搭載してウォータークラフトを使用するには、船舶検査手帳に母船の船名が登録されていなければなりません。

JT1100-A1

**JET
STAR**

 **Kawasaki**

川崎重工業株式会社 CP事業本部

Part No. 99921-1608-02